

未済之み詳解

附録

913.426

マ

付録

故文學博士小中村清矩校閱  
 和田英  
 藤球合著

增鏡詳解 附錄

東京 明治書院

增鏡詳解 附錄

目次

- 增鏡詳解索引
- 增鏡系圖附書引
- 增鏡年表
- 京都都圖
- 京都附近圖
- 閑院內裏圖



故文學博士 小中村清矩校閱  
 和田英  
 佐藤球合編



目次

清涼殿圖  
寢殿造圖

増鏡詳解索引

(あ)

愛染王法	上 一三七	朝政	下 二九	あづまの代官	上 七三	天の川	下 五五
あいだてなし	上 六二	あさる	下 二五	あつめこしの歌	中 二一六	安元の御賀	中 一五四
闕伽	中 一三五	あし垣	下 一四七	跡とめての歌	中 一八四	安福殿	下 三九 〔閑院内裏圖〕
明石の浦	下 一四七	葦簾	下 三四	あと枕もゑらず	下 六五	安福殿の釣殿	下 四一 〔閑院内裏圖〕
赤橋	中 二二〇	葦屋の里	下 二六九	あと見ゆるの御歌	下 一七六	安養壽院	中 四一
秋の木の葉の浮べる	下 二一八	あじろ	上 二七三	あなかま	中 一〇二	安樂塩(樂名)	中 一六四
秋の宮	下 九七	網代輿	下 一四三	あながり	中 一〇一	雨とふるの歌	中 二五三
あけぞき	中 二二一	網代の御輿さかさまによせて	中 二二二	あなぐり	中 一〇一	雨のあし	上 八八
上鞠	〔上 二三〇 中 一七六〕	網代廂の車	上 一七五	安名尊(樂名)	〔上 一七五 中 一七〇〕	あやの指貫	中 一六二
宿扇	中 一五	あすよりの歌	中 二五三	粟田口	〔上 二一〇 中 一七〇〕	あやの笠	下 七八
朝餉	〔上 二〇五 中 九七〕	朝臣	上 三七	あはれとはの歌	下 一七八	嵐の山	中 一五
あさなき	上 四〇	わたのきほふ	下 一三七	あはれ見しの歌	下 七三	あられにくわむの紋	〔中 一六二 京都附近圖〕
		あづまのあるじ	上 三〇九	逢阪	下 一八二	あるじ	〔上 一七〇 京都附近圖〕
				あへなむ	〔上 七〇六〕		

青糸毛の車 アヲイトウ	上二五五	倚子 イシ	中二二二	五衣 イツキヌ	上二一九	岩倉の山庄 イハシマツ	下三二二 〔京都附近圖〕
白鳥の節會 アヲウマ	上二二五	伊勢の海(樂名) イセノウミ	下四七	一ちひみつ	中七三	いはけたる御遊	上二二六
青毛の馬 アヲウマ	中二二六	伊勢の御 イセノミ	上三三七	五重の扇 イツヘ	中五	石清水 イハシマツ	中一二四 〔京都附近圖〕
青侍 アヲサマ	上二二九	伊勢よりすまへ イセヨリスマヘ	上九五	五卷の日 イツマキ	上二四一	石清水の若宮	中一五二
あをにび(服色) アヲセミガ	中二六二	出車 イダシクルマ	〔上二〇七 上二二〇〕	出雲之昔雲 イツノキモクモ	下二一四	伊吹山	下二五〇
青紅葉(服色) アヲキナガ	中六三	いたづらにの御 イダズラニノミ	中二五六	糸毛車 イツモクルマ	中九七	家の紋	下六二
青柳(樂名) アヲヤナギ	中二七一	壹越調 イツワヅ	中一六四	いとせめての御 イツセメテノミ	下二七〇	家のやう	下五八
青柳の糸 玉ぬ アヲヤナギノイト	中一六五	一字金輪法 イツジツキ	九九	いとまたの御 イツマタノミ	中三三三	いはりにたける	下二七八
(S.る)	下二〇	一字三禮 イツサンレイ	下八	歌 ウタ	中一〇五	今鏡	上八
いかにえたりてか イカニエタリテカ	下八六	一の左 イツノサマ	下五一	歌 ウタ	下二三四	今能野	〔京都附近圖〕 上一九五
いくまほかの歌 イクマホカノウタ	中二五四	一人 イツヒト	〔中一五七 下五七〕	歌 ウタ	〔京都附近圖〕 下二八四	今どゑるの歌	〔下三六 下八八〕
いくたの森 イクタノモリ	下二七〇	一の舞 イツノマヒ	中一六五	古の御幸 コノミヨキ	下二八四	今出川の第	〔上九九三 京都圖〕
池の心 イケノココロ	上二三六	いづくの島守 イツクノシマノリ	二一〇	犬くひ イヌクヒ	下二三三	今ひとての歌	下二〇三
いさゑらすの歌 イサエラスノウタ	下二六一	一切經 イツツクノキヤウ	上二二三	命あればの歌 イノチアレバノウタ	一六九	今のはやの歌	下二〇六
今様 イマサマ	中二二三	院中のほうこう インチュウノホウコウ	上二二〇	岩木ならねば イワキナラネバ	下二六五	今林殿 イマノリノミ	〔京都附近圖〕 下七
いむ事うけさせ イムコトウケサセ	中二二九	院の執權 インノシツケン	下二二七	うき世のきはめ ウキヨノキハメ	下二六三	打物 ウチモノ	中二二一
いもし イモシ	上二八三	院の殿上人 インノテンジョウ	下九一	纏綱 ウチヅナ	中一六〇	うつし馬	上一五九
いや世繼 イヤセツグ	上八	院の文殿 インノフミ	下五〇	右近の陣 ウチノキリ	下四〇	うつし殿	下三八
入綾 イリヤ	中五六	(う)	〔上二七九 上二〇〇〕	右近の馬場 ウチノキリノウマバ	〔中三〇 京都附近圖〕 下二二四	卯花(服色) ウサハ	下二〇〇
倚廬 イリヤ	中二四九	鶉飼 ウツメ	〔上二七九 上二〇〇〕	丑みつばかり ウツメツバカリ	上二二四	卯花威の鎧 ウサハノカサ	下一二九
いろくしの イロクシノ	下二八	うかびたる事 ウカビタルコト	上二二八	薄様 ウツメ	〔上二七五 中一〇七〕	うはざし	上二二二
いろはねど イロハネド	下二三三	うかりけるの御 ウカリケルノミ	下二二八	薄色(服色) ウツメ	上二九二	うばそく	上一八一
色もかもの歌 イロモカモノノウタ	下二八一	歌 ウタ	下二二七	歌のひじり ウタノヒジリ	上二二四	うばそくの宮	上一八一
色ゆり イロユリ	〔下二〇〇 下二〇八〕	うさくくと ウサクク	下二二一	打御衣 ウチノカサ	中九四	うひ宮仕	中二三一
異位重行 イヘイジュウコウ	上二八五	浮織物 ウキオリモノ	〔上二七五 中一三三〕	桂 ウツギ	上二二四	御うぶやの儀 ミウブヤノギ	下一〇一
居飼 イカヒ	〔上二七六 中二二三〕	うき事もの歌 ウキコトモノノウタ	下三二	うち衣 ウチノカサ	〔中一五一 中一三二〕	うべくしき人 ウベクシキヒト	下八〇
威儀の女房 イヘイメノメナガ	中一九七	うきたびもの歌 ウキタビモノノウタ	下二八〇	うち殿 ウチノミヤ	下二五六	うへの御局 ウヘノミヤ	〔清涼殿圖〕 下五四
田舎 イナカ	上二三六	うきにまぎれぬ ウキニマギレヌ	下三三	うち長者 ウチノチヤウジヤ	下二二〇	うへのきぬ ウヘノキヌ	〔上九八七 中九五〕
院司 イノシ	中二五	うきに又の歌 ウキニマタノウタ	下二九五	氏長者 ウヂチヤウジヤ	下二五五	うへの袴 ウヘノハカマ	〔上九九五 中二三五〕
		浮紋 ウキモノ	上一五九	打橋 ウチノハシ	中五〇	馬あびさせられ ウマアビサセラレ	中六三

索引 〇いゝ

御馬御覽 御所合人 うみながし 雲霞のいきほひ 雲霞のつはもの 雲清寺 梅がさね(服色) 梅がえにの歌 梅壺 梅の花の歌 裏とき蘇芳(服色) 浦こぐ船のかちを たえ うら山吹(服色) 雲林院 右衛門陣	中二二六 中二三 中一四六 下一三八 上七四 下一七八 上一五九 中二 上一七九 中八一 上一二九 中二二九 上五九 上五三 上六 中二〇〇	(え、ゑ) えならぬ 薔浦染(服色) えびぞめに白筋 薙道 圓満院 えり下襲 衛士のたく火 越天樂 衛府のすけ 烏帽子直衣 (お、を) かいかけ 老いしらへる あきて	下五六 上二二三 中一七七 下一九一 上一八八 中二二一 下一三九 下一四七 中二七九 下一四三 上一二七五 中一一七 下五八 上二三四 中九六	かさふし拜する かさわかれの歌 詮 かくれるるの歌 かどなくしき おなじくばの歌 鬼殿 おのづからの歌 大鏡 大方の歌 大北政所 大くら谷 虎子 大原 大宮の木戸	中二六六 中二一四 上一一 下七四 上一四五 下五六 下一四八 中二五六 上八 下八五 下一〇四 下一七四 中八九 上一五七 下一四二	御かうじ 御臺 御にはひ 大矢 おほやけ 御前の池なるの 歌 御前の物 陰陽師 陰陽寮の守護神 御室 おもひきやの歌 思ひの津にの歌 思ひやれの歌 思ふ事の歌 おもへたの歌	下一一八 上一七九 下一六四 下一二九 上一二〇 中二一四 下六三 上一二二 中四四 上一〇五 下一一五七 下一九〇 中六九 下一五七 下一三三 下七四
---	---	---	--	---	---	---	---

おろく 岡崎 男の記録 をどめ子かの御 歌 斧の柄の朽にし をふのうらなし 女郎花(服色) 小山五郎 小山判官秀朝 折櫃もの 折烏帽子 (か) 艾安 かいかはの三位 かいく	上七 上一九五 中二六 中二三 下一五二 中八二 中一九七 下一八〇 下一〇二 上一五五 下一四八 下一二四 下二五 上一八一	開山の聖 かいひそみ 更衣 かうし(服色) 格子 かうじ 講師 行成卿 香染(服色) 行道 香の薄匂(服色) 香の織物 康保の花の宴 かはらぬをの歌 箒屋	上一三二 上一二六 上一〇二 上一四四 中一七四 中二〇三 上七三 上一六七 下一八 中一三六 中一〇六 上一七六 下一〇九 下一七九 中二〇二	かゝるきはにぞ 云々 かきたてしの歌 燕子花(服色) 柿の衣 かきひたし かぎりある道 かきりなきの歌 樂所 樂所始 覺道上人 かくろへばみ 加古川の宿 笠置寺 鶉の橋 かしく愚なる	中一八五 下一五七 下一〇〇 下七八 中一三三 中八一 中一七三 下一〇九 中四八 中七七 下一二五 下一七六 下一二四 下五五 下五二	柏挾 かしは原 嘉辰令月 頭の霜 頭の雪 春日殿 春日の御櫛 春日社 春日社に行幸 かずくの御 歌 敷だて 霞の洞 片足かはり かた織物 片口の御銚子	下一五一 下一〇七 上一五〇 上一九八 上一九八 上三〇 下三八 上一五二 下一〇六 下八八 中一四 上一二一 中七六 上一七六 中一六九 中一九五
---	--	---	--	--	--	--	---

片そへて	上九〇	なねのひき	中一九五	神代の御物語	中一〇七	唐の赤地錦	〔下〕四七
かたはら目	中二七	かねの文	中五二	神崎	下一六九	からの薄物	中二二九
かた舞	上一五九	かば櫻(服色)	〔中〕五三	神館	下一六一	からの香染の薄物	下一三〇
固文	下五七	かば櫻の七	〔中〕一六四	かひなぎ	下一〇〇	唐の御船	中一九八
方わかち	中六九	かはらけ	下三九	閑院	上一五三	唐の装したる船	上一二四
かちむ(服色)	下六一	革緒の劔	中一六七	閑院の内裏	〔上〕六七	唐鹿車	〔中〕九五
勝むかひ	中六八	貝覆	〔上〕二〇二	龜山殿	〔上〕三〇	狩襖	上一七九
葛城の大君	下一八九	胃花	上二〇五	賀茂祭	上一六一	狩衣	上一七二
鞆鼓	〔中〕五八	鏑矢	中一四九	かもむ	中九一	茹藻川	下一七一
桂の葉室の山	〔上〕二二九	壁代	中一六八	掃部寮	中一八二	枯野の眞葛の歌	中三〇
〔京都附近圖〕			下二〇六	唐綾	中三九	(a)	
柯亭(笛名)	中一七〇	歸るべきの歌	中一〇一	から織物	〔上〕一七五	裘袋	上一六四
賀殿(樂名)	中五六	鎌倉評定の様	上二八三	唐衣	〔上〕三〇	きぬかゝるの歌	下一二二
假名の日本紀	上六	竈神	上二二四	唐錦	中一六一	きゝゝあししの歌	下一八二
かなへ殿	中一九三	神さび	中六七	枯野(服色)	〔上〕一七六	菊の網代庇の車	中九五
なねてよりの歌	中六二	かみや紙			〔中〕一〇七		

菊のとれむじの御輿	中二二六	忌日	上一四二	魚綾(服色)	〔中〕三九	熊野新宮	上一二五
菊紅葉の狩衣	中二三八	衣笠	〔中〕一〇五	さり戸	上一二九	熊野本宮	上一二五
立后(儀)	上一七	きぬた	上二〇〇	記録所	下一〇六	久米の皿山	下一八二
きささ(名)(雀名)	下一三	木丸殿	下一二四	(く)		雲の上穢れ	中二〇四
きさらぎの中の十日	上一	君はよしの歌	中二四〇	公卿の座	下四四	雲の上のの歌	〔中〕一九〇
北方	上六五	禁色	中九四	結	上六二	雲井に澄みのぼる	中六
北白川殿	〔中〕九六	公達	上七〇	結あげて	中一七八	雲井をひゝかす	下一二二
〔京都附近圖〕							
北殿の棧敷	下一〇九	さもつよかり	上七	供花	中一三五	供養	上六五
北の陣	下一四二	寛宴	上二九	薬玉	上二〇五	藏人	上一〇六
北政所	上一一五	さようさく	下一〇六	くせある	下二七	藏人頭	中二六
几帳	〔上〕二二一	教授	上一六二	供僧	上一三七	内藏寮	上一五五
議定	〔中〕二二六	玉葉集	下一六	口すげみ	〔上〕二八	位山の歌	中二一六
木津	下一〇六	逆修	中六四	沓	中一七六	車寄	下一六〇
〔京都附近圖〕							
乞巧奠	下五四	清き死	上七四	宮内卿の君	上二七	紅の打たる拾	中一六九
木戸	下一三八	御劔の役	中二三八	鍛形	下一二九	紅のにはひ(服色)	中五一

紅の匂の薄もな	上二一八	灌頂	上二六三	けしかるものど	下二四七	元服の年	上二二四
紅の袴長やかに	下二四八	灌頂の加行	下六	けしきとりかは	下六三	顯密	上七七
踏垂れ	中七〇	くわらといふ袈	中二一〇	顯證	上二九二	儉約行はる	中二四五
黒方(薫香)	上二〇〇	(け)	中二八二	揭焉	下二六一	けやけき	下九〇
廻忽(樂名)	中二六七	惠果和尚	中一八九	結縁灌頂	中三三	下臈	上二六一
懷紙	中一七二	家司	中一三九	關腋	中二六七	(こ)	
廻雪	下二一四	警蹕	中五七	外法	中四五	胡飲酒(樂名)	中五九
廻立殿	中九八	けいめい	中二二六	今日の袂の歌	中六三	後宴	下一四
光明峰寺	中三二	景陽の鐘	下四一	元久詩合	上二一	五葉の枝	中三三九
華族	上二六一	けいろ(樂器)	中二六四	源氏の大将須磨	下三三一	勾當内侍	中九一
観音寺	上二六二	けうとく	下二二七	源氏の松風云々	中二四〇	功濁	中三二
元日節會	上二八六	瞿曇彌	上二二二	玄象(琵琶名)	中二二一	小桂	中一〇七
貫首	上二八五	孝じ	下七一	けむじやくわむ	中七四	紅梅(服色)	上二三八
勸修寺の殿原	下二〇八	げさく	上二八八	建仁のためし	中二七六	紅梅の匂(服色)	上二二三
官廳	中九七	けさうじ	上二六〇	元服	上一七	紅梅のひねりあ	中六三

五蕙	下二二六	腰ざし	上二三四	五の巻の日	中六七	こや野の宿	下一六九
公務の日	上二四一	腰結	中一八九	近衛殿	中一五一	こやのひまなき	上八九
後院別當	中八七	尾從	中一一六	こはいひ	中一〇八	小弓	上三六
濃きひとへ	上二二〇	五節	中一四一	木幡山	下二二四	こゆるぎの磯	中一一三
古今集以下撰集	上二二五	御前のめし	中一四二	五部大乘經	上二七六	こよひしもの歌	下三〇
獄卒	下二二八	五大尊	中一三七	護摩	下二一〇	御靈社	中一二七
國分寺	下二八八	五壇法	上二四三	狛犬	中一九九	後冷泉院宇治行	下二四二
國母	下一四	五帖	中一七九	高麗唐土の綾錦	上二二三	衣がへ	下六一
御禊	上一五	古鳥蘇(樂名)	中五六	金剛山千はや	下二二五	(さ)	
心わらばの歌	中八〇	後朝使	上二二二	金剛子の珠數	中六九	左右舞	中五五
心さすの歌	下二一八	小朝拜	上二八六	金剛童子	中七九	西行法師	上四二
心とかきけち	下二二八	ことひみ	上二四七	紺くゝり	上六二	齋宮	中三七
心の闇に	中七	御燈	中一七七	金堂	上三三二	齋宮群行	中三七
心まどひ	下八一	後鳥羽院號	上二二〇	紺むら濃(服色)	上二二八	齋宮御禊	下一一八
心ゆるびなき	下五三	小直衣	中三九	後夜	下二二二	齋宮卜定	下一一八

索引 ○けこさ

採桑老(樂名)	〔中〕一七八	櫻の御直衣	中一六二	三の鼓	中五五	まげき御惠は銃	中一九九
最勝講	〔上〕一四〇	櫻人(樂名)	下一一三	三昧料	上一二〇	波山云々	〔中〕一五一
在位四十六日の帝王	上一八三	櫻萌黄(服色)	〔中〕五七	侍	上一七七	師子	中一九九
西園寺	上一三五	櫻井の宮	上一四三	さめざらましを	下一三〇	師子がしら	中二二〇
箏	〔中〕一五〇	座さまたぬ法	上一三七	さもこそはの歌	下一八四	四十九日	中七二
草鞋	中一七六	棧敷	下一〇〇	(名)		まゝら(布帛)	下一五一
草鞋を懐く	中一九二	さしき殿	上一三二	まうとく	〔中〕一五〇	注連	中二三四
曹司	〔中〕一五八	指貫	上一七五	糸鞋	中六七	四大	下一二六
さうじみ	下一二五	さすが猶の歌	中二五〇	試樂	中四八	機	〔中〕一三二
草子箱	中三九	さとしまげく	上一〇九	志賀の浦	〔中〕一三二	下襲	〔中〕一五九
さうなく	下一二九	雑務の日	下一二一	色紙	中一四	下くゆる	中八
さかさまの御歎	中一五七	三衣(僧服)	中一八二	職事	下一五八	下簾垂	中一四五
さかふべきの歌	中一三九	三史五經	下一五〇	敷島の道	上一八	下たく烟	中三
さかも木	下一三八	三千の寵愛	〔中〕一五五	檜	下一三二	まはるゝの歌	中二三九
櫻の唐の綺の紋	上一三七	三度の御使	中二四八	止觀	中六四	七社の神殿	上一七九
七佛薬師	〔中〕一四三	搦屋	下一七三	精進	下一二七	衆議判	上一四〇
十種供養	中一二	島かくれゆく船	下一七四	將曹	中二五	酒胡子(樂名)	中一六七
七寶	中二三七	新古今	上一二九	浄土	上一四二	衆生	下一八六
死出の山	上九三	神今食	上一八三	浄土寺	〔中〕一〇四	主上御灸治の例	中八九
茵 <small>シト</small>	〔中〕一〇六	眞言	中六五	聖徳太子の御墓	〔中〕一〇四	巡方の帯	中一六七
まめ <small>シト</small> しから	上一〇四	新勅撰	上一〇八	浄土の宗旨	中六五	春鸞囀(樂名)	中五六
まのぶを乱れ織りたる	中二二六	眞讀の大般若	中一四七	浄土の三部經	中三四	准胝法	下一九九
柴の菴のまげし	上九〇	下大所御覽	中一九四	上陽人の宮の中	下一五六	崇徳	上一三一
まはぶきやみ	下一〇四	下野の君	上一二五	成佛	上一三二	聖護院	中四八
十五帖	下一一一	笙	〔中〕三五	上臈	〔中〕一〇七	頌	下一二五
十善のあるじ	上一〇九	讓位	上一九	青蓮院	下一九八	諸衛のすけ	下一五八
十二の御衣	中二二九	城興寺の宮	上一二四	笏	上一〇三	諸大夫	〔中〕一七七
十樂院	中二二九	承久の例	中二〇七	まやく木	中五三	白綾の御衣	下一六〇
十六日の節會	下九三	浄金剛院	中一三	守護	下一八九	白菊(服色)	〔中〕一七五
まほぢが御迎	下一三一	障子	下一六一	錫紵	中二四八	白拍子	中四〇

ざるべするの歌	下 一六七	すぎなく	中 一八五	蘇芳のはり	中 一九一	制に應ず(内宴詩)	中 一七三
白からし(服色)	中 一七七	輔仁の親王	上 二二五	洲濱	中 一四	青海波(樂名)	中 五五
銀にてひた打にして	中 六七	すげみたる口	上 六	須磨	下 一七一	清暑堂	中 九八
銀のかたみ	中 四〇	雙六	上 三六	須磨の浦へも	下 三二	清暑堂御神樂	〔下〕二二五
銀をのべたる	下 五八	洲崎	下 四三	澄明に後れたる願文	中 四二	清涼寺	〔下〕二二四
白き御よそひ	上 一四四	すさめ給ひて	中 二二七	墨染にやつれぬ	上 一一一	清涼殿	〔中〕一五一
白き袖口	上 一四九	すさめぬ人	中 一八五	墨染の歌	下 二六三	逍遙	〔下〕三六
白きもの	上 一六〇	朱雀院	〔中〕一三一	住吉	上 二〇七	昭王	上 一五〇
白の御太刀	中 三三九	受禪	中 二二四	すむながる	〔上〕三〇	せうろく	下 二四
白繪の屏風	上 一五〇	すそ濃(服色)	上 二二七	受領	〔中〕二二八	關むかへ	中 二二五
紫苑色(服色)	中 一〇七	すそ濃の袴	上 二〇七	水干	中 一四一	關守の打ぬるひ	下 二二三
(す)		鈴鹿(和琴名)	中 一三一	推參	〔中〕一四一	せぎりに渡す	上 二一五
透渡殿	中 一五〇	すし(布帛)	中 一六二	吹田の山庄	上 二〇〇	勢田	〔下〕二四六
誦經の使	上 一四五	雀の松原	中 一六九	末の柏子	上 一五二	節會	〔中〕三三
すくよか	下 一三六	簀の子	中 一三一			攝政關白	上 二二三

攝取院	下 一八	禪林寺殿	中 三五〇	そはくしき	下 二七	釋の宮殿	中 二二六
善見天の珠妙の莊嚴	上 二二一	責一人にあり	上 七九	素服	中 二四九	たいしき	上 一八三
千五百番歌合	上 二六	せれうの里	中 二一五	そばれがち	中 一一二	大徳	上 六八
前栽	上 二二	(そ)		尊號をかへし奉らせ給ふ	中 九九	太平樂(樂名)	中 五五
前栽合	中 一三四	總つゝくし	上 六三	尊者	中 一六六	大文の高麗	中 一六一
前司	中 一三六	宗明樂秋風樂	中 三四	尊星王法	中 九一	導師	上 一六四
千秋樂(樂名)	中 一七八	雙林寺	〔上〕一九五	そめどの	下 三三〇	常日の消息	上 二一八
善勝寺	中 一四	蘇合(樂名)	中 一七八	染めこがしたる	中 二五二	道心	中 一〇三
船上寺	下 二三五	蘇合(樂名)	下 五四	(た)		道場	中 一六〇
禪僧	中 二〇九	續古今集	中 一七	大阿闍梨	〔上〕一六二	堂童子	中 一六五
善知識	〔中〕七八	續後拾遺集	下 八八	待賢門	下 一九〇	たえはつる	下 三三
千度の御秘	中 七三	續千載集	下 三七	大臣大饗	〔上〕六七	高砂の松	下 一七五
懺法	中 五六	即位	上 一五	大床子	〔中〕三	たかまの山	下 一四〇
泉涌寺	〔上〕三一	種ぬらすの歌	中 六三	大將の隨身	下 六〇	高みくらの行幸	下 二二四
禪林寺	〔中〕二〇七	そのかみにの歌	下 四	大嘗會	上 一六	瀧口	上 一五八

索引 ○すせそた

竹田	〔下二四六 京都附近圖〕	たてあかし	上六一	ためらひ	下四〇	椿葉のかげ云々	上二二四
竹だてわき	中一九四	谷の鶯の云々	下五三	垂水	下七三	鎮守	上二九四
竹の園生	下九六	茶毘	中二四七	(ち)		陣の中	〔下四二 下九七〕
竹のはやし	下六三	旅の雲井	上九二	近き川の鮎	上三八	陣の座	下九〇
手輿	上八四	たましひあるさ	中一四三	誓ひたる御消息	中二〇八	陣の定	中一〇一
但馬の城崎のい	中四一	玉津島	下三六	契りこしの歌	下四	持明院	中一三〇
でゆ		玉のくゝり	中五三	竹林樂(樂名)	中一七九	除目	上二二八
太上天皇	上三三	玉の幡	中三四	地下	上二二三	長講堂	〔中三八四 京都圖〕
たゝう紙	中二二三	玉水のながるゝ	下五七	地下の舞	〔中二二一 下四六〕	定業の亦能轉	中七三
たゞ人	中一五八	やうに	中一五一	持齋	下七	重祚	下二五五
立かへりの歌	下八二	だみかへし	中一五一	地すり(服色)	〔中一九一 中二二九〕	長慶子(樂名)	中一六七
橘太后	上三三	談天門院御忌月	下二三	父を殺すもの一	上八六	長老	上三三一
橘小島	上七二	丹波(氏)	中八八	萬八千人	上六三	中宮の宣旨	下九〇
鐺	上四九	田村利仁	上五八	地頭職	上三三	中宮のひの御座	中二〇四
龍田姫	上二七七	田村の將軍より傳り まゐりける御劔	中八六	持佛堂	上三三	中殿	下五一
たづねさての歌	中一一	爲兼流の歌	下七〇	陣	〔上七六 上五三〕		

中殿にて披講	下二〇四	つくも髪物語	上八	鶴の丸を黄にか	下五八	殿上	〔中九四 清涼殿圖〕
中門	〔上二二九 寢殿造圖〕	つげの小櫛	中二三三	つゐしやう	上五七	殿上のかみの戸	〔下三九 清涼殿圖〕
中門の廊	〔中五〇 寢殿造圖〕	つこもり	下一九	杖どりの使	中一六五	殿上の賭弓	上三七
勅をしての歌	中一五〇	つじ風	上一九五	(て)		傳奏	下一九八
勅祿の手	中二六六	つたへさくく歌	下一八三	定家本源氏物語	中二四〇	天皇元服	下一三
ちよをこめたる	下四三	躑躅(服色)	中一三四	庭松緑老秋風冷	下一九四	天王寺	〔上二〇七 上三三二〕
(つ)		壺	中二三四	帝王の御のり物	上一九一	てる月なみ	下四一
ついがさ	上二八二	壺おひて	中一七二	鳥向樂(樂名)	中三四	寺司	上一九五
ついがさね	上一七九	つばさうぞく	下一六三	朝觀	中八五	(と)	
續松	下二二七	妻戸	中二五	銚子	〔中一三三 中一三三〕	春宮の使(賀茂祭)	下一〇二
つかの間	下二五〇	露霜重りて	下五	てぐるまの宣旨	中一九一	東寺	〔下一六三 京都圖〕
月次祭	上一四八	釣殿	〔上三三八 上二七九〕	天蓋	中三四	東南院	下二四
月次神今食	上一八三	つるうち	〔上二四九 寢殿造圖〕	田樂	〔中二八 中二八〕	時をらぬの歌	下一〇四
月草	下二六三	鶴岡八幡宮	上六九	傳供	中三四	関つくる	下二四三
つくぐとの歌	下一九四	鶴の林に薪つき にし日	上一	天子に父母なし	中一四	時にあひたる	下六二

時の花と	下 一五〇	土用	下 八三	直衣に衣出し	中 一四一	七日の節會	下 九三
時の間	下 一二六	豊明	上 二一七	長月やの歌	下 一九	なのめなり	下 一四一
常盤井殿	〔中二〇一〕 〔京都圖〕	虎とのみの歌	中 三〇	ながらへての歌	下 二〇六	猶たのむの歌	〔中一八〕 〔中三〇〕
とくさの狩衣	中 二二五	虎の口を遁れた	下 二一七	渚の氷もどけが たき世	下 二二九	鯨尾の刀	中 二〇六
讀師	中 一六七	鳥破 <small>(樂名)</small>	上 二五一	なき人の歌	中 一八四	なま腹ぎたなき	下 四九
得選	中 一九五	鳥破急	中 一七一	なくねにまがふ	下 一七二	なま宮たち	中 二二七
所せき御ありさ	上 八七	(な)		長押	〔中二一〕 〔中三一〕	男女房	中 七〇
利仁	上 五八	内宴	中 一七二	勿來關	上 六四	なよびか	上 二〇五
戸灘瀬	〔上二三〇〕 〔京都附近圖〕	内侍劔璽をとり	中 二〇一	なごみ	下 八〇	鳴板	〔下五五〕 〔清涼殿圖〕
舍人雑色	上 二二七	内侍所	上 一四	なさけおくれ	中 四五	なれにけるの歌	下 二六
主殿寮	中 一八二	内侍所の御物	上 二三六	なさけなきまで	下 六〇	(は)	
主殿司	中 一九六	内侍のかみ	上 一四〇	梨壺の五人	上 二五	二階作られて	中 三八
鳥羽殿	〔上二一〇〕 〔京都附近圖〕	内侍のかむ	下 七二	撫子 <small>(服色)</small>	〔中一三四〕 〔中三〇〇〕	西川の石ふし	上 三八
とまや	上 八九	内膳司	上 一五二	南殿	上 一五二	錦を洗ふ九江	上 一七二
屯食	〔上二一五〕 〔中二二一〕	直衣	〔上二二九〕 〔上二七五〕	なごさきたぬ	上 一〇七	西八條	〔中三三〕 〔京都圖〕

廿一社	中 七三	女御	上 一七	涅槃	中 三一	放生會	中 二二〇
廿五菩薩	上 二三七	女御代	〔中〕 〔中九七〕	(の)		八講	上 一四一
西山大原	〔下二四二〕 〔京都附近圖〕	女工所	上 一六九	能冠	中 二二一	はかなくもの歌	中 八二
二千里の外	〔上二九〇〕 〔中一八一〕	女藏人	下 一〇	長閑なるの歌	下 一〇四	着袴	上 一一〇
似繪	中 一四六	女孺	中 二〇〇	野中の清水	下 一七五	袴きはにて	〔中五七〕 〔中二四七〕
二條内裏	〔中九四〕 〔京都圖〕	如法愛染	中 七一	野宮	〔下二一八〕 〔京都附近圖〕	萩のたて青 <small>(服色)</small>	中 一九四
二條万里小路	〔下四二〕 〔京都圖〕	如法尊勝	下 九九	信實朝臣	上 八二	萩の戸	〔下三八〕 〔清涼殿圖〕
二の對	〔中九一〕 〔寢殿造圖〕	如法佛眼	下 九九	法のあるじ	下 六八	白柱千秋樂 <small>(樂名)</small>	中 一七八
鈍色	上 一六四	如來	上 二三七	法の水	上 四五	箔ちらす	中 五三
入道	中 二	如來二傳	上 一	(は)		はこやの山	上 八八
入道親王	上 九八	(ぬ)		陪膳	〔上二五四〕 〔上二七九〕	階かくし	上 一五〇
匂つゝ <small>(服色)</small>	中 五三	幣帛	〔上二六三〕 〔上二四五〕	賣炭の翁	中 一三三	階の間	上 三三二
匂ひみちて	中 一五	布引の瀧	下 一六九	拜禮	上 一八五	走馬	上 一二七
任大臣の節會	下 六三	塗籠	〔中九一〕 〔清涼殿圖〕	坊	上 三四	走下部	下 五八
如意輪法	下 九八	(ね)		判官	下 一四五	橋渡の使	下 一六六

索引 ○なにぬねのは

八葉の御車	中九六	花をむすびて	下二一三	番馬	下二五〇	引直衣	〔中〕一九四
鳩の杖	上三	花を折る	〔中〕六一	半臂	上二五九	緋紺狩衣	上二七七
花籠	中一六五	母代	上二八七	はやりか	下二一九	ひさげ	中一三三
花櫻のあはひ句	中二三〇	法師の兒	下六四	張綱	上二五九	久しかるべきは	下五一
はしき(服色)	上二七六	法成寺	上二三八	播磨國熱田社	中八四	賢人の徳	下二二
花田(服色)	中五八	法勝寺	上二四一	春風に徳を仰ぐ	中一七	非參議	中一三六
花田裏山吹(服色)	中二五	法性寺	〔京都附近圖〕 下二四六	春きてしの歌	中二四三	ひしめきたつ	下二五〇
花橋(服色)	〔上〕二七九	法服	上二六四	春の司召	中一七六	樋洗	上二三〇
放出	〔中〕二七九	法輪寺	〔京都附近圖〕 上二九六	祓	上二一一	ひすましめくも	下二二五
花といはゞ云々	中一〇六	萬歳樂(樂名)	中二五六	檜扇	中一八七	火たきや	下八三
花の春の歌	下二二六	萬秋樂(樂名)	下五四	(ひ)	上二七八	直垂	下二六二
花はげにの歌	中一七八	盤涉調	〔中〕三四	日吉社	上二七三	臂も折りぬべき	下二三九
花は上苑に明なり	〔下〕一七八	万乗のあるじ	上二八七	光なきの歌	下七三	筆策	〔中〕二四二
花は猶の歌	〔下〕一七五	半尻	中五三	ひさいれ	〔上〕二三一	御棺	中二四二
花ひらけたる心	下九二	番長	上二五九	ひさうつし	〔中〕一四三	未の下り	上二四七
花山吹(服色)	下五九				〔中〕九六		

人から	下六二	ひ水	上三八	檀破子	中一一	伏見山の歌	中一三九
一筋にの歌	下二〇	びむづら	〔上〕二三四	氷魚	上二七三	ふすべ草	中一七六
副車	上二七七	拍子	〔上〕一五〇	緋威の鎧	中二〇〇	袷	〔上〕二三一
人にかしこまる	下六六	兵仗	〔中〕九九	(ふ)	中二〇〇	袷覆	上二二三
人鷹の塚	下二七四	評定衆	下五〇	傳	中二五九	布施	上二六四
一めぐりの事	下九五	平等院	上二七三	ふい	下八〇	伏籠	中六九
人わらへ	下九二	平紋	中五八	笛	中五三	浮線綾	上二七五
人わろさ	上二一三	兵衛陣	中二〇四	笛竹の歌	下五五	二藍	〔上〕一七六
晝の御座	〔中〕一九二	平絹	中二六	深草殿	〔京都附近圖〕 中二四二	舞踏	中三七
日野山庄	〔京都附近圖〕 中三八	ひらつゝみ	上二八一	服	〔上〕一〇〇	二つ御衣	中四八
皮檜(服色)	上二七六	平野社	〔京都附近圖〕 上二九六	吹風も枝を鳴さ	上二一八	二重織物	〔上〕一五九
檜皮屋	下二四三	平胡籙	中二六九	福原の島	下二七一	二見の浦	〔下〕一七五
雛遊	上二二三	蛭が小島	上二六〇	普賢延命法	中七一	藤(服色)	〔中〕二二三
ひへぎ	中二四九	檳榔毛の車	上二四一	臥見(筆名)	下二一三	藤壺	〔中〕二三四
隙ゆく駒	下二四七	廣田宮	下二六九	伏見殿	〔京都附近圖〕 中一三八	藤なみ	上二六七

佛陀	中一五八	風輦	〔上〕七六 〔下〕四三	本殿	〔下〕二一	またなれぬの歌	下二四四
船さし	上一七九	外よりはの歌	中一三	梵天の宮の中	〔下〕四三	松が浦島に年経ぬる	下二五二
文臺	上二三五	牧馬(琵琶名)	中一七〇	煩惱	中六九	松がさね(服色)	〔中〕五三 〔下〕五七
ふみの博士	上一四九	北面	上四〇	堀川の女御	下八三	松重の下襲	中二五
ふるき御幸	下一六九	北面の下薦	〔上〕七二 〔上〕七二	(ま)		祭の使	下六一
富樓那尊者	中一六六	星の宿	上五二	まかげさして	〔下〕二七	祭の御幸	下一九九
(へ)		細殿	下二七	まかづ	上二七	祭穠	上一二一
へなみ	上一二五	細長	上二三三	まがくまう	上一二四	松をむすびて	〔下〕六〇
變熊續紛	中一八〇	本尊	上一三七	檣の島	中一三五	まどはし	下六五
籍つき	上一二〇	菩提	上一三一	卷繪の太刀	〔下〕三〇	窓の螢	中二一六
(ほ)		菩提講	上六	まくるなくひ	中二一六	まなきこしめし	中一九八
布衣	中九五	法華堂	〔中〕二五〇 〔京都附近圖〕	まことしき事	下五二	まな始	上一八九
寶藏	〔上〕三三 〔上〕九七	骨の壺	中八一	まことや	下八八	舞人	〔上〕六二
ほう堂	上一八一	梵字	下八	負わざ	中一四一	萬葉集	上一二五
北條郡	上五九	本所の前驅	中一八九	籬	〔下〕六〇	まむ霧	中三二

まみ	下四四	御とうみ牧	下六八	御書始	上二七	種門	〔下〕四四 〔下〕九一
眉をひらく	下二六二	御堂のかをり	中一三六	みへだすき	中一九一	無名門	〔下〕四〇 〔清涼殿圖〕
鞠	上一三〇	道々	中一三六	三重の狩衣	中五三	紫かうし(服色)	中一七八
鞠のかゝり	中一三〇	道々の師	中一七一	みもすそ川	上八六	紫のほひ(服色)	〔中〕一〇七 〔中〕一七四
(み)		御帳	上一二六	都の梢をかくる	下一六五	無量光院	上一三五
御垣守	下二三三	水鏡	上七	都へ流され給ふ	中二二二	(め)	
三笠山	〔上〕五二 〔上〕二五	三衣	〔中〕五一 〔中〕六三	宮づかさ(春宮)	下九一	名香	中一六〇
三日月の中山	下一八二	御厨子	〔中〕三九 〔下〕二五	彌勒菩薩	中三五	明堂殿	中四三
神園をとる	上一二七	水のあわの歌	下一七五	(む)		妙法院	下一一九
みくしげ殿	上一八九	水の白波に云々	中二四五	昔見しの歌	下三一	めざまし	下三二
神輿たがひの行	中一八四	癸祭	上一八三	武庫川	下一六九	召人	〔中〕二一〇 〔下〕六五
神輿振	上七六	三つ葉四つ葉	上一三二	むくり	中六〇	召次	〔上〕八四 〔中〕二二
みさき	中一五七	皆紅の八	上一五〇	席田(樂名)	上一五一	乳母をえらぶ	下一〇一
御簾の役	中一六九	湊川の宿	下一七〇	むすび狩衣	〔上〕六七 〔中〕五二	(も)	
御隨身	上三八	水無瀬	〔上〕二〇 〔京都附近圖〕	櫛裾	上七一	裳	中一〇七

萌黄の御腹卷	下三〇	もみぢ葉にの歌	中二五五	やすぎの津	下二八五	山ふじのね	中六九
もから(織文)	下六二	文殊樓	中四四	柳筥(服色)	中一七五	やみのうつゝ	下二二三
御装着	中一八七	百色どの歌	中一七三	柳だすき(織文)	中五三	遣水	下四〇
目代	下二八九	百敷の歌	下二〇四	やなぐひ	上一七七	(ゆ)	
もちひの使	上二二三	母屋	中二一四	八幡の行幸	下一六六	行平の中納言	下二七二
もてあつかふ	下七五	唐土には三千人	中一五五	八幡山崎	中二二一	行末をの歌	中一七三
もてないて	下二二九	もろともへの歌	下八七	やぶさめ	中二二一	ゆくゝと	下二〇二
もどほしの袍	中一六七	(や)		山姫の歌	中二五五	湯殿	上一四九
物忌	中一三八	やうだい	中二二九	山科寺	下九七	ゆひを	中一七六
ものうかるね	下二五六	やうなきもの	下八六	山の座主	下九七	夢どだにの歌	中一一〇
物にあたりまど	上二二九	役送	上一五四	山吹(服色)	中一三五	夢のたうち	中二一五
ものにもがなや	上二八二	やくそ	上一七九	山伏すがた	中二二〇	夢見すと歎きし	下六六
物のけ	上二四〇	八雲御抄	上三四	山又山	下七五	(よ)	
物見車	中一四五	薬師	中七六	山道つくられて	中一七	腰輿	中一五一
物をのみの歌	中二四三	やざしうもつよ	下一八	世をのびる	中二四八		下二一

索引 ○やちよらりれるわ

横川	中二二六	世の中の歌	中二五五	朗詠にし給ふ	下五二	陵王(樂名)	中五三
横さまのさいは	上九九	蓬の髪	上一九八	羅綺重衣	中一七八	兩六波羅	中二二八
余五將軍	中三三	吉田院	上二二〇	落躑(樂名)	中五六	(れ)	
吉水僧正	上四二	よもはみなの御歌	中二五三	榎子	中一九五	寮の御馬	上二四四
餘執	上三二	代々を経ての歌	下一一五	螺鈿の御臺	中三八	連歌	上六二
よそにのみの歌	下二七八	代々を跡にの御歌	中一七三	らむと	上二〇二	蓮華王院	上一九四
よだけう	中八七	代々の御幸の歌	下一一五	乱聲	中二五	(ろ)	
四足門	中一五二	よゝどなき	中二一五	(り)		六義の言葉	下一一四
世繼	上八	夜のおど	中二〇一	龍頭鷲首	上一九九	縁衫	中二一〇
四の緒	下二五七	夜のにしき	中一五	理髮	上一三一	六字法	下九九
よどゝもの御涙	中二四三	御悅申	上六三	臨川寺	中二五七	ろくたい(服色)	中五三
世のうさをの歌	下二四五	鎧直垂	中二〇〇	繪旨	下一五〇	露顯	上二二三
世のおもし	上一三八	(ら)		臨時祭	上一〇三	露臺の乱舞	中一四一
世の常の御直衣	下一六〇	來迎のけしき	上一三七	輪臺(樂名)	中五五	(わ)	
夜の鶴	下一九七	朗詠	上一五〇	令旨	下二二五	往生院	中七八

わうばん	中二二六	和歌の序	上二九八	鷺のみ山	上四三	わらはやみ	上二三五
我たつ袖	上四九	わが身こそその歌	下二〇	渡殿	上二二	わりご	上三三〇
和歌所	上九五	我世盡さぬる	下二〇七	和田の岬	下二七一	我すめばの歌	下二九
和歌の浦	上二六	我世にはの歌	下二六	移徙の儀	中一三四	我にもあらぬさ	下二二三
和歌の浦にの歌	下一九六	關腋	中一七六	輪違を細く金の文にして	中五三	我のみやの歌	中六一
和歌の浦のの歌	下八九	和氣(氏)	中八八	わづかの鷺	下二二四	われもかう乱れ	中一〇七
和歌の浦やの歌	下八九	和琴	上二五〇	峰山	中二四二	織りたる	中一〇七
				わらぐつ	中二四二	わしく	下二四

### 増鏡詳解索引終

### 増鏡系圖

(備考)

一 此系圖ハ、むれと増鏡に載せたる人物を限りて、編纂せり。されど出自系統を明にせんが爲に、其父祖兄弟の類、本書に見ゆるものを擧げたるは、都て小字となしてこれを區別せり。

一 藤原氏ハ、その末廣くして、一系に通載せむは、中々に繁雜に堪へざるをもて、今五攝家以下の十流となして、分載せり。然れども、其出自を知らしめむが爲に、始に大綱の系圖を掲げつ。

一 本書中、一人にて、卷毎に官位稱號等のかはりて顯れたらむを識別し、及び、其人物の事蹟を搜索する便を謀り、人名の左傍に、官位稱號等を具註し、下に括弧を附して、卷名を記まつ。其本名のみなるハ、直に名の下に卷名を擧げたり。かくて、卷名は、略して數詞を用ひて符號とし、篇次の順序によりて、これを標せり。其例左の如し。

(一)おごるの下 (二)新島もり (三)ふぢ衣 (四)三神山 (五)内野の雪 (六)烟の末々 (七)おりぬる雲 (八)山のみみぢ葉 (九)北野の雪 (十)あすか川 (十一)草まくら (十二)老のみみ (十三)今日の日影 (十四)つげの小櫛 (十五)うら千鳥 (十六)秋のみ山 (十七)春の別 (十八)むら時雨 (十九)久米のさら山 (廿)つき草の花

一 畫引は、人名の頭字の字畫により、其畫數の順序を以て、細字にて系圖の頁數を記せり。但し増鏡の本文に、唯官位稱號等を擧て、人名を載ざるものも、其官位稱號の頭字を畫引にして、吉水僧正、西園寺大納言、などの如く、下に本名を記し、同稱異人なるは、中院(十二)土御門、攝政(二)實業、などの如く、名の上に括弧を付し、卷名の符號を擧げて、これをわかつて、其天皇は、本文に、内、うへ、御門、當帝、當代など、まちくに記したれど、こゝにはすべて當代としたり。

畫引

一畫

〔二〕一品内親王（子八）一品宮（子七）院（三）後深草（十四）後深草（十四）後深草（十四）後深草（十四）條攝政殿（子五）萬（三）の宮（子七）の御（子七）

二畫

〔二〕位殿（子三）宮（六）條院一の御子（子七）條院（十三）條殿（子三）院（十三）樂院法親王（子四）入道太政大臣（子六）道宮（子七）道殿（子七）道殿（子七）

三畫

〔三〕井寺長吏（子三）位殿（子三）宮（子三）條后（子三）條宰相中將（子三）〔土〕御門大納言（子四）御門内大臣（子二）御門院（子二）御門殿の宮（子四）〔久〕我右大臣（子三）明親王（子二）〔大〕

四畫

夫（子三）臣（子八）炊御門大納言（子三）宮院（子九）納言（子三）納言典侍（子三）將殿（子三）殿（子三）覺寺殿（子五）〔女〕三御子（子六）院（子四）院（子四）御（子八）御（子八）

五畫

〔山〕階寺別當（子三）の座主（子三）〔五〕條院（子二）〔仁〕和寺御室（子三）助法親王（子一）〔内〕大臣（子五）侍三位（子九）侍の（子一）

六畫

春（子一）相（子九）重（子九）風（子十）脩（子十）清（子十一）敏（子十）基（子九）泰（子十）爲（子八）貫（子八）雄（子十）敦（子八）經（子九）曉（子三）賢（子十）親（子八）衛（子八）藤（子十）繼（子八）顯（子九）〔中〕宮（子三）

七畫

〔太〕政大臣（子五）〔少〕將（子九）〔月〕花門院（子二）輪殿（子三）〔四〕宮（子二）條大納言（子二）條院（子三）條宰相（子三）世（子三）良親王（子三）〔仙〕華門院（子一）〔今〕出川大臣（子四）出川太政大臣（子一）出川院（子九）〔北〕山准后（子三）白川院（子十四）白川殿女（子十四）

八畫

院（子三）〔右〕大臣（子三）大將（子六）〔冬〕方（子十一）氏（子十一）平（子六）定（子十三）忠（子十二）信（子十二）教（子六）〔左〕大臣（子六）大將（子三）右大臣（子三）衛門督（子三）〔平〕准后（子三）〔式〕部卿御子（子一）〔本〕院（子二）〔永〕嘉門院（子二）福門院（子九）〔玄〕輝門院（子十）〔正〕親町院（子十）

九畫

〔西〕八條入道（子三）花門院（子三）園寺入道（子三）園寺大臣（子三）園寺大納言（子三）園寺女御（子三）園寺中宮（子三）園寺中納言（子三）〔伏〕見院（子二）〔仲〕時（子五）恭天皇（子一）〔光〕明峯寺殿（子三）經（子六）兼（子八）忠（子二）嚴院（子二）〔先〕帝（子三）坊（子七）〔吉〕水僧正（子七）

十畫

〔安〕喜門院（子八）嘉門院（子一）德天皇（子一）〔守〕良親王（子三）助（子九）邦親王（子二）貞親王（子一）〔宇〕治前僧正（子三）〔成〕輔（子四）〔有〕家（子十七）忠（子二）房（子二）時（子三）資（子三）頼（子三）〔行〕仁親王（子四）家（子十七）房（子十八）昭（子七）

十一畫

〔佐〕渡院（子一）〔兵〕衛内侍（子一）〔宜〕秋門院（子六）〔冷〕泉太政大臣（子三）〔別〕當（子六）

十二畫

〔別〕當（子六）

十三畫

〔別〕當（子六）

八畫

〔妙〕—法院宮<sup>廿五</sup>〔更〕—衣腹姫宮<sup>廿五</sup>〔良〕—助法親王<sup>三</sup>—家<sup>七</sup>—教<sup>五</sup>—惠<sup>六</sup>—尊<sup>七</sup>—  
經<sup>六</sup>—瑜<sup>六</sup>—實<sup>六</sup>〔邦〕—世親王<sup>三</sup>—良親王<sup>三</sup>

〔京〕—極院<sup>十</sup>〔兩〕—院<sup>廿三</sup>〔後深草院〕—女院<sup>大宮院東</sup>〔姊〕—宮<sup>廿三</sup>〔宗〕—冬<sup>十三</sup>—房<sup>十五</sup>—家<sup>十三</sup>—時<sup>五</sup>

〔盛〕—尊親王<sup>二</sup>—雅<sup>十三</sup>—實<sup>十三</sup>〔定〕—房<sup>十五</sup>—家<sup>十四</sup>—嗣<sup>十五</sup>—通<sup>廿一</sup>—雅<sup>十一</sup>—實<sup>廿一</sup>〔岡〕

—屋殿<sup>廿三</sup>〔延〕—明門院<sup>二</sup>〔忠〕—信<sup>十二</sup>—季<sup>十二</sup>—家<sup>六</sup>—高<sup>十六</sup>—教<sup>六</sup>—通<sup>五</sup>—朝<sup>十二</sup>—繼

十二—顯<sup>廿二</sup>〔性〕—惠法親王<sup>四</sup>—圓法親王<sup>三</sup>—融法親王<sup>四</sup>—助法親王<sup>二</sup>〔房〕—子<sup>八</sup>—

名<sup>十七</sup>—實<sup>六</sup>〔東〕—一條院<sup>七</sup>—二條院<sup>九</sup>—南院僧正<sup>櫻壽</sup>—御方<sup>法</sup>〔法〕—仁法親王<sup>四</sup>—

助<sup>七</sup>—性寺殿<sup>廿五</sup>—皇<sup>廿四</sup>〔後白河三〕—皇<sup>廿五</sup>〔後深草〕—卿<sup>冬</sup>〔治〕—卿<sup>冬</sup>〔神〕—仙門院<sup>一</sup>〔知〕—仁親

王<sup>三</sup>〔季〕—房<sup>十六</sup>—雄<sup>十</sup>—實<sup>十三</sup>—衡<sup>九</sup>〔花〕—山<sup>十三</sup>—山院大納言<sup>廿三</sup>—山院太政大臣

〔十二〕—山院內大臣<sup>廿三</sup>—山院中納言<sup>廿三</sup>—山院大納言<sup>廿四</sup>—山院准后<sup>貞子</sup>—園院<sup>二</sup>〔具〕

—氏<sup>廿一</sup>—守<sup>廿</sup>—行<sup>廿三</sup>—定<sup>廿</sup>—雅<sup>廿一</sup>—實<sup>廿</sup>—親<sup>廿一</sup>—顯<sup>廿一</sup>〔近〕—衛大殿<sup>廿四</sup>—衛殿<sup>九</sup>—蓮院<sup>廿二</sup>—蓮院

法親王<sup>廿三</sup>〔阿〕—波院<sup>廿四</sup>〔長〕—俊<sup>十二</sup>—通<sup>廿一</sup>—雅<sup>十二</sup>—樂門院<sup>八</sup>—親<sup>十二</sup>〔青〕—蓮院<sup>廿二</sup>—蓮院

〔信〕—通<sup>二</sup>—隆<sup>十三</sup>—輔<sup>廿四</sup>〔修〕—明門院<sup>十九</sup>〔俊〕—光<sup>十八</sup>—定<sup>廿</sup>—基<sup>十七</sup>—實<sup>十五</sup>〔前〕—大將

門院<sup>廿三</sup>〔彦〕—子<sup>六</sup>—仁<sup>二</sup>〔後〕—白河院<sup>一</sup>—鳥羽院<sup>一</sup>—後堀河院<sup>一</sup>—後深草院<sup>二</sup>—宇多

院<sup>三</sup>—伏見院<sup>二</sup>—二條院<sup>三</sup>—醍醐院<sup>三</sup>〔恒〕—良親王<sup>三</sup>—明親王<sup>三</sup>〔故〕—入道相國

〔九〕—入道殿<sup>十八</sup>—大臣<sup>廿二</sup>—女院<sup>廿五</sup>—中納言<sup>廿七</sup>—東山殿<sup>廿三</sup>—皇后宮<sup>廿二</sup>—院<sup>十三</sup>

〔十六〕—昭<sup>十八</sup>—訓門院<sup>九</sup>—慶門院<sup>四</sup>〔相〕—保<sup>十四</sup>—摸守<sup>十四</sup>〔皇〕—后宮<sup>六</sup>—后宮<sup>六</sup>〔秋〕

—の宮<sup>廿八</sup>〔承〕—久廢帝<sup>廿三</sup>—明門院<sup>廿一</sup>—鎮法親王<sup>一</sup>〔若〕—宮<sup>六</sup>—宮<sup>六</sup>〔秋〕

〔茂〕—通<sup>十四</sup>〔貞〕—子<sup>十七</sup>—直<sup>廿五</sup>—時<sup>廿五</sup>—盛<sup>廿五</sup>—顯<sup>廿五</sup>

〔兼〕—平<sup>六</sup>—光<sup>十七</sup>—行<sup>十三</sup>—良親王<sup>三</sup>—忠<sup>六</sup>—季<sup>九</sup>—倫<sup>十八</sup>—家<sup>十二</sup>—高<sup>十三</sup>—經<sup>五</sup>—嗣

—實<sup>六</sup>〔准〕—后<sup>七</sup>〔姬〕—君<sup>八</sup>—宮<sup>十七</sup>—家<sup>一</sup>—平<sup>五</sup>—定<sup>十三</sup>—長<sup>十一</sup>—教<sup>十一</sup>—基

五—經<sup>六</sup>—實<sup>五</sup>〔宰〕—子<sup>五</sup>—相三位<sup>廿一</sup>—相君<sup>廿一</sup>〔峯〕—殿<sup>廿五</sup>〔師〕—忠<sup>六</sup>—信<sup>十一</sup>—重

廿二—家<sup>五</sup>—教<sup>六</sup>—通<sup>十一</sup>—賢<sup>十一</sup>—親<sup>廿二</sup>—藤<sup>十二</sup>—繼<sup>十一</sup>〔時〕—房<sup>廿五</sup>—宗<sup>廿五</sup>—政<sup>廿五</sup>—茂<sup>廿五</sup>—

益<sup>廿五</sup>—輔<sup>廿五</sup>—賴<sup>廿五</sup>—繼<sup>廿四</sup>〔桓〕—守<sup>十</sup>〔泰〕—時<sup>廿五</sup>—家<sup>廿五</sup>〔益〕—性法親王<sup>四</sup>〔眞〕—性

一〔能〕—保<sup>十三</sup>〔院〕—〔高〕—倉院<sup>一</sup>—時<sup>廿五</sup>

〔國〕—房<sup>十五</sup>—資<sup>廿</sup>〔啓〕—仁親王<sup>三</sup>〔基〕—平<sup>五</sup>—成<sup>十四</sup>—忠<sup>六</sup>—房<sup>五</sup>—俊<sup>廿</sup>—家<sup>十四</sup>—教

六—通<sup>五</sup>—具<sup>廿</sup>—雅<sup>十二</sup>—嗣<sup>六</sup>—輔<sup>十三</sup>—實<sup>五</sup>—顯<sup>十四</sup>〔崇〕—明門院<sup>三</sup>〔常〕—住院僧正

〔通〕—具<sup>廿</sup>—雅<sup>十二</sup>—嗣<sup>六</sup>—輔<sup>十三</sup>—實<sup>五</sup>—顯<sup>十四</sup>〔崇〕—明門院<sup>三</sup>〔常〕—住院僧正

〔能〕—保<sup>十三</sup>〔院〕—〔高〕—倉院<sup>一</sup>—時<sup>廿五</sup>

〔國〕—房<sup>十五</sup>—資<sup>廿</sup>〔啓〕—仁親王<sup>三</sup>〔基〕—平<sup>五</sup>—成<sup>十四</sup>—忠<sup>六</sup>—房<sup>五</sup>—俊<sup>廿</sup>—家<sup>十四</sup>—教

六—通<sup>五</sup>—具<sup>廿</sup>—雅<sup>十二</sup>—嗣<sup>六</sup>—輔<sup>十三</sup>—實<sup>五</sup>—顯<sup>十四</sup>〔崇〕—明門院<sup>三</sup>〔常〕—住院僧正

十一畫

十畫

九畫

八畫

系圖 ○ 畫引

十二畫

長壽〔康〕一仁親王<sub>三</sub>〔座〕一主法親王<sub>承嗣</sub>〔惟〕一明親王<sub>二</sub>一康親王<sub>三</sub>一繼<sub>廿四</sub>〔御〕一息所<sub>廿七</sub>〔掄〕一子女王<sub>三</sub>〔教〕一<sub>十六</sub>定〔梶〕一井法親王<sub>廿三</sub>〔梨〕一本法親王<sub>廿三</sub>〔深〕一守法親王<sub>三</sub>〔清〕一盛<sub>廿四</sub>〔理〕一子內親王<sub>四</sub>〔章〕一義門院<sub>二</sub>〔通〕一子<sub>廿</sub>一方<sub>廿二</sub>一冬<sub>廿三</sub>一世<sub>廿一</sub>一光<sub>廿二</sub>一成<sub>廿二</sub>一行<sub>廿二</sub>一良<sub>六</sub>一房<sub>廿二</sub>一宗<sub>廿</sub>一具<sub>廿</sub>一忠<sub>廿一</sub>一重<sub>廿三</sub>一持<sub>廿二</sub>一宣<sub>廿二</sub>一教<sub>廿二</sub>一基<sub>廿二</sub>一雄<sub>廿二</sub>一雅<sub>十一</sub>一親<sub>廿</sub>一賴<sub>廿二</sub>一顯<sub>廿二</sub>〔野〕一宮右大臣<sub>六</sub>〔隆〕一久<sub>十七</sub>一行<sub>十六</sub>一良<sub>十七</sub>一兼<sub>十六</sub>一康<sub>十六</sub>一博<sub>十七</sub>一資<sub>十七</sub>一蔭<sub>十七</sub>一親<sub>十七</sub>一顯<sub>十七</sub>一衡<sub>十六</sub>〔傅〕一大臣<sub>廿三</sub>〔善〕一勝寺<sub>廿二</sub>一統親王<sub>二</sub>〔堀〕一川大臣<sub>廿四</sub>〔尊〕一良親王<sub>三</sub>一雲法親王<sub>三</sub>一澄法親王<sub>三</sub>〔敦〕一季<sub>十三</sub>〔普〕一賢寺殿<sub>廿三</sub>〔最〕一助法親王<sub>二</sub>〔櫻〕一宮<sub>廿三</sub>〔棟〕一子<sub>廿四</sub>一範<sub>廿四</sub>〔爲〕一子<sub>十四</sub>一方<sub>十五</sub>一氏<sub>十四</sub>一世<sub>十四</sub>一冬<sub>十四</sub>一行<sub>十五</sub>一定<sub>十四</sub>一明<sub>十四</sub>一兼<sub>十四</sub>一家<sub>十四</sub>一教<sub>十四</sub>一雄<sub>十四</sub>一經<sub>十五</sub>一義<sub>廿三</sub>一<sub>十四</sub>道一藤<sub>十四</sub>〔將〕一軍<sub>十三</sub>〔規〕一子內親王<sub>四</sub>〔菊〕一亭右臣<sub>廿九</sub>〔達〕一智門院<sub>三</sub>〔陽〕一德門院<sub>二</sub>〔順〕一助法親王<sub>四</sub>一德院<sub>二</sub>〔圓〕一助法親王<sub>三</sub>一滿院二品法親王<sub>廿三</sub>一滿院法親王<sub>廿三</sub>一滿院僧正<sub>廿三</sub>一實<sub>七</sub>〔嬉〕一子內親王<sub>三</sub>〔慈〕一助法親王<sub>二</sub>一勝<sub>六</sub>一圓<sub>六</sub>一源<sub>七</sub>一道法親王<sub>四</sub>〔愷〕一子內親王<sub>三</sub>〔新〕一帝<sub>廿</sub>一院<sub>四</sub>〔院〕一後字<sub>廿</sub>一伏見<sub>廿五</sub>一後伏見<sub>廿五</sub>一准后<sub>廿</sub>一陽明門院<sub>五</sub>〔殿〕一の大將<sub>廿</sub>〔源〕一<sub>大納言</sub>〔瑜〕一子<sub>廿</sub>〔當〕一<sub>代</sub>〔子〕

十三畫

自十四畫至十六畫

自十七畫至廿三畫

〔廉〕一子<sub>七</sub>〔經〕一子<sub>十二</sub>一氏<sub>十二</sub>一世<sub>十五</sub>一平<sub>六</sub>一任<sub>十五</sub>一光<sub>十八</sub>一守<sub>十五</sub>一良<sub>六</sub>一定<sub>廿三</sub>一忠<sub>五</sub>一俊<sub>十五</sub>一海<sub>十六</sub>一朝<sub>十八</sub>一繼<sub>廿四</sub>一顯<sub>廿四</sub>〔義〕一時<sub>廿五</sub>一朝<sub>廿三</sub>〔聖〕一護院法親王<sub>廿四</sub>〔萬〕一秋門院<sub>七</sub>〔資〕一平<sub>廿</sub>一<sub>十七</sub>名一明<sub>十八</sub>一季<sub>十三</sub>一定<sub>十七</sub>一宣<sub>十八</sub>一通<sub>十六</sub>一朝<sub>十八</sub>一實<sub>十八</sub>一親<sub>十三</sub>〔道〕一平<sub>六</sub>一良<sub>六</sub>一長<sub>十三</sub>一昭<sub>七</sub>一家<sub>七</sub>一深法親王<sub>一</sub>一隆<sub>十二</sub>一<sub>九</sub>意〔遊〕一義門院<sub>三</sub>〔雅〕一子<sub>十一</sub>一有<sub>十二</sub>一行<sub>廿二</sub>一忠<sub>廿一</sub>一房<sub>廿一</sub>一家<sub>廿二</sub>一通<sub>廿</sub>一經<sub>十二</sub>一親<sub>廿</sub>一藤<sub>廿</sub>一繼<sub>十一</sub>〔頓〕一悟房<sub>六</sub>

〔實〕一尹<sub>九</sub>一氏<sub>九</sub>一世<sub>十</sub>一冬<sub>七</sub>一平<sub>八</sub>一任<sub>八</sub>一忠<sub>八</sub>一直<sub>七</sub>一俊<sub>九</sub>一重<sub>七</sub>一躬<sub>八</sub>一兼<sub>九</sub>一時<sub>八</sub>一泰<sub>十</sub>一盛<sub>八</sub>一基<sub>八</sub>一教<sub>十</sub>一雄<sub>十</sub>一經<sub>六</sub>一朝<sub>廿三</sub>一衡<sub>九</sub>一藤<sub>十</sub>一繼<sub>八</sub>一顯<sub>九</sub>〔廣〕一義門院<sub>九</sub>〔維〕一時<sub>廿五</sub>一衡<sub>廿四</sub>〔輔〕一時<sub>廿</sub>一通<sub>廿</sub>〔憲〕一時<sub>十五</sub>〔談〕一<sub>十</sub>天門院一<sub>十二</sub>壽一子<sub>九</sub>一子內親王<sub>三</sub>〔叡〕一雲法親王<sub>四</sub>〔範〕一茂<sub>十九</sub>一藤<sub>十九</sub>〔親〕一子<sub>廿二</sub>一氏<sub>十六</sub>一定<sub>廿</sub>一房<sub>廿二</sub>一朝<sub>十六</sub>一實<sub>廿一</sub>一賢<sub>廿一</sub>〔賢〕一助<sub>十</sub>〔賴〕一定<sub>十五</sub>一俊<sub>十六</sub>一家<sub>廿三</sub>一朝<sub>廿三</sub>一經<sub>七</sub>一嗣<sub>七</sub>〔頭〕一<sub>中將</sub>〔齋〕一宮<sub>九</sub>〔禮〕一成門院<sub>九</sub>〔禪〕一助<sub>廿二</sub>一林寺殿<sub>廿三</sub>〔隱〕一岐法皇<sub>廿四</sub>〔攝〕一政<sub>六</sub>〔藤〕一房<sub>十六</sub>一<sub>十九</sub>關一白<sub>五</sub>一<sub>廿二</sub>雲法親王<sub>三</sub>〔龜〕一山院<sub>二</sub>〔權〕一大夫<sub>廿三</sub>〔歡〕一喜園院<sub>廿三</sub>〔權〕一王<sub>一</sub>一助法親王<sub>二</sub>一雲法親王<sub>三</sub>〔龜〕一山院<sub>二</sub>〔權〕一大夫<sub>廿三</sub>〔歡〕一喜園院<sub>廿三</sub>〔權〕



宗尊親王 一品  
母准后平種子  
若宮(五將軍(六)中務宮(八))

後深草院 久仁  
母大宮院  
當代(五、六、七)新院(八、九、十)本院(十一、十二、十三)  
持明院(十四)院(十五、十六)法皇(十七、十八)

龜山院 恒仁  
母同  
二宮(六)東宮(七)當代(八、九、十)新院(十一、十二)中院(十三)禪林寺法皇(十四)

圓助法親王 母能保女  
母能保女  
圓滿院(僧正)

性助法親王 二品母公房  
仁和寺御室(十)

覺助法親王 一品母勾當內侍  
刑部卿孝時女  
聖護院(十二)

最助法親王 隆衛女  
梶井(七)

慈助法親王 公純女  
青蓮院(十)

皇 子  
菩提院(十一)

月花門院 母大宮院  
子(十一)綜子

愷子內親王 母二條局  
齊宮(九、十一)

皇 女  
母神仙門院

知仁親王 母京極院  
若宮(八)

後宇多院 世仁  
母同  
御子(九)若宮(東宮)當代(十一、十二)新院(十三、十四)中院(十五)院(十六)法皇(十七、十八)大覺寺殿(十九)

啓仁親王 母新陽門院  
若宮(十二)

繼仁親王 母同  
母早世

守良親王 四品  
母實任女  
なにかしの宮(二十)

兼良親王 母廓御方源通雅養女  
母實任女

恒明親王 一品  
母昭訓門院  
式部卿(十六、十七)常盤井(十七)

良助法親王 母實平女大納言典侍  
青蓮院(二)山座主(十四)

覺雲法親王 母同  
若木(十二、十四)

伏見院 仁  
母支輝門院  
若宮(八、十二)東宮(十三)當代(十三)持明院中(十四)

久明親王 母三條公  
親女房子  
將軍(十四)式部卿將軍(十八)

守邦親王 二品  
將軍(十八、二十)

遊義門院 始子、後宇多后  
母東二條院  
姫君(十三)皇后宮(十三)遊義門院(十四、十五)

陽德門院 母公相女  
母公相女

後二條院 邦治、母遊義門院  
若宮(十二、十四)當代(十四、十五)

後醍醐院 尊治  
母談天門院  
二宮(十四)帥宮(十四、十五)東宮(十五)當代(十六、十七、十八)先帝(十九、二十)

性圓法親王 母同  
二品大覺寺(十七)

達智門院 母同  
前齋宮(十六)達智門院(十四、十七、十八)

崇明門院 邦良親王妃  
邦良親王妃  
崇明門院(十七、十八)入道院(十九)

尊良親王 母為世女為子  
一御子(十六、十七)中務卿(十七、十八、十九)

世良親王 西園寺實俊女  
二御子(十七)帥御子(十七、十八)

恒良親王 母新待賢門院  
母新待賢門院

尊雲法親王 俗名護良  
母海師親女親子  
二品大塔座主(十八、十九)大塔宮將軍(二十)

尊澄法親王 母同尊良  
妙法院座主(十八)

惟康親王 母攝政兼經女  
若宮(四品)將軍(九)將軍、權中納言(右大將(十四))

永嘉門院 母多妃、邦良親王母  
母源通具孫女  
十五、十七、十八、瑞子、後

掄子女王 母同惟康  
母同惟康

後伏見院 亂仁、養母永福門院  
實母准三后經子  
東宮(十三)當代(十四)新院(十四、十五)本院(十六、十七、十八、十九)

光嚴院 量仁  
母廣隆門院  
一宮(東宮)十七、十八、當代(十九、二十)

花園院 富仁、後伏見養子  
母顯親門院  
二宮(東宮)十四、東宮(當代)十五、院(十八、十九)

壽子內親王 光嚴院妃  
母宣光門院  
一品宮(十九)

章義門院 母公宗女英子  
母公宗女英子

延明門院 母同花園  
母同花園

邦良親王 母宗親女  
東宮(十六、十七)先坊(十七、十八)

康仁親王 母源定教女  
一宮(東宮)十七、十八、二十)

邦世親王 三品式部卿  
三品式部卿

深守法親王 母尾張局  
母尾張局

椿子內親王 母同  
母同

女 王 母為世女  
母為世女

女 王 大納言典侍  
大納言典侍

女 王 中宮御前殿  
中宮御前殿

叡雲法親王(十四)初名定良(母西園寺公相養女)諡岐二位

性惠法親王(十四)妙法院母公親女

性融法親王(十四)安井母通能女

順助法親王(母帥典侍平時仲女)

慈道法親王(母同)

行仁法親王(十四)七樂院母同

益性法親王(十四)二品

昭慶門院(喜子母雅平女雅子川端院(十四)昭慶門院(十六)四十七)

暁子內親王(母同後字多)

理子內親王(十三)母實雄女

皇女(十三)母五條院(十四)母同良助(九)條師教室

法仁法親王(母為道女中宮宣旨)

權子內親王(宣政門院母中宮禧子)

瓊子內親王(母同尊良)

皇女(十九)母三位經朝女(宮當)

藤原氏大綱

鎌足 不比等

武智麻呂

房前

宇合

魚名

眞楯

內麻呂

忠平

冬嗣

師輔

良門

兼家

公季

伊尹

基經

良房

道長

賴通

師實

忠實

忠通

○五攝家 近衛 九條 二條 一條 鷹司

忠通 攝政

基實 攝政

基房 攝政

師家 攝政

基通 攝政

家實 攝政

良教 大納言

家平 大納言

兼經 攝政

基平 攝政

家基 攝政

經忠 攝政

新陽明門院

家基 淨妙寺、高山寺殿

家平 岡本殿、母關白兼平女

經忠 堀河殿

忠房

兼嗣 正二位參議  
松殿宰相中將(十三)

頓悟房 (十三)

女子 母新陽明門院  
始季雄室 後嫁基教

九條 兼實 月輪殿(後法性寺)  
月輪關白(一、五)

慈圓 天台座主、大僧正  
吉水僧正(一、二)

良經 後京極攝政殿(一、三)

良輔

良瑜 常住院僧正(十)

良惠 東大寺別當  
僧正(五)

宜秋門院子(一)在  
後鳥羽后

經良 正二位中納言  
二條中將(七)

家良

經平 權中納言正二位  
衣笠宰相中將(九、七)

經平 左大將、從一位、後淨妙寺  
母龜山院皇女  
若君(十三)

慈勝 天台座主、僧正、  
僧正(十八)

兼平 稱念院  
從一位左大臣(六)關  
白(七)太政大臣鷹司  
殿(九)關白太政大臣  
鷹司大殿(十二)

鷹司院(三)  
後堀河后

基忠 圓光院  
母實有女  
右大臣(九、七)關白  
(十)鷹司大殿(十四)

兼忠 大納言(十二)  
歡喜園院  
攝政(十三)

忠家 一音院  
左大臣(四)左大將(五)  
右大臣(六)九條攝政殿(十一)

彦子 宣仁門院、四條妃  
母公經女  
女御(三、四)

道良 左大臣  
母四條隆衡女  
三位中將(五)大納言(六)

師忠 母同  
二條左大臣(十一、十二)傳  
(十三)香園院左大臣(十四)

基嗣 後岡屋殿  
內大臣(十七)

冬平 母中納言經平女  
後昭念院攝政(十五)  
鷹司大殿(十七)

冬教 後圓光院、  
實冬平弟  
左大將、內大臣、左大  
臣(十六、十七)

聖尋 東大寺別當  
東南院僧正(十八)

師教 淨土寺關白  
九條殿(十二)

房實 後一音院  
關白(十六)

道平 後光明照院  
二條大臣、長者(十九)

內實 內覽、棲心院  
攝政、後光明寺殿

道家 母能保女  
九條右大臣(一)光明寺  
殿(二、三)峯殿(三、五)大  
殿(東山殿)三(四)

基家 鶴殿  
母基房女  
前內大臣(八)

良尊 三井寺長吏  
宇治僧正(五)

東一條院 順德后  
(一、三)立子

賴經 征及將軍(三)  
大納言(四)

慈源 大僧正  
天台座主(三)

行昭 大僧正  
三井寺長吏(三)

圓實 大乘院  
興福寺別當(三)

法助 准三后  
仁和寺御室(三、五)

賴嗣 母家良女  
征夷將軍少將(五)  
三位中將(六)

萬秋門院 後二條妃  
尚侍(十五)萬秋門院(十七)

內經 秀院利苑院  
左大將、關白(十六)

道昭 准后、三井寺長吏  
常住院僧正(十八)

○仁義公公季裔 三條 西園寺 德大寺 今出川  
正親町三條 正親町 滋野井

公季四世孫

公實 行 公教

西園寺 通 季 公通

實宗 德大寺 實能

滋野井 公時 實宣

阿野 公佐 實直 阿野 侍從從三位(五)

公房 淨土寺相國  
三條太政大臣(三)

實親

公光 別當(五)中納言(六)

公仲 公廉

廉子 後醍醐妃  
中宮内侍、准后(廿六)  
内侍三位(十九)

實重 太政大臣  
母實雄女  
三條中納言(十二)  
公茂

實冬 權大納言  
頭中將(十)

實定 公繼 左大臣(六)

實基 大納言(右大將(五)內大臣(六)太政大臣(九))

公孝 太政大臣 別當(十)德大寺大納言(十三)

實孝 公清 內大臣(後野宮) 德大寺中將(十六)

長樂門院 忻子後二條后 母內大臣公親女 中宮(長樂門院(十五))

女子 公相室

實家 公國

實光 公敦 頭中將(十三)

清水谷 公定 實持 公隆 實時 實隆 實時(十三)大納言 母實雄女

公親 三條(白河) 母公經女 權中納言(金)三條大納言(六) 內大臣(十一)三條內大臣(十三)

實盛 三條宰相中將(十三)

實平 三位中將(八)

女子 龜山妃 春日(八)大納言典侍(十三)

安喜門院 後堀河后 三有子

正親町三條 公氏 實隆

公俊 公爲 少將(五)

實繼 右中將 少將(十) 實忠 內大臣 後三條 三條中納言(十七)

房子 後深草妃 御匣殿(十四)

女子 後宇多妃 (十一)十二

公貫 左大臣 中將(十三)三條大納言入道(十四)

實仲 公明 大納言 母經俊女 宰相(十六)侍從中納言大納言(十八)

實躬 大納言 公秀 正二位 內大臣 三條中納言(十四) 三條大納言(十九)

秀子 光嚴妃(崇光)後光嚴母 陽祿門院 三條(十九)

公種 實任 宰相(十六)藤中納言(十七)

公衡 從一位左大將(母通成女顯子) 院司(左衛門督(十三)今出川大納言(十四) 中納言(別當)實隆(十六)右大將(十五))

公顯 從一位右大臣(母顯子) 西園寺大納言(十四)右大臣(十五) 今出川 中宮御匣殿(十八)

兼季 菊亭(母家女房) 西園寺中納言(十四)大納言(右大將(十七) 前右大臣(十八)菊亭右大臣(十九) 太政大臣(十九)

道意 東寺長者 僧正(十八)

永福門院 鏡子伏見后 母通成女 女御(中宮(十三)皇后(中宮(十四)永福門院(十四)十五)十八)

昭訓門院 龜山妃 千四十九 璵子

禮成門院 嬪子後醍醐后(母同兼季) 中宮(十七)十八)禮成門院(十九)廿)

女子 實實顯女 (十一)母嬪子內親王

女子 實實顯女 二條殿(十三)

公宗 正二位權大納言 實俊 從一位右大臣 春宮大夫(十八)西園寺 大納言(十八)十九)廿)

公重 西園寺中納言(十九) 女子 光嚴妃 今御方(十九)

廣義門院 後伏見后 千五十六)十九)寧子

季衡 內大臣從一位 別當(十五)

實衡 正二位內大臣 母大納言經任女 中宮大夫(右大將)內大臣(十六)

壽子 侍女(實西園寺侍景房女) 龜山妃(大宮院) 中宮(八)九)廿)今出川院(十三)

今出川院 嬪子大宮院養女 龜山后 中宮(八)九)廿)今出川院(十三)

實俊 中將(十一)

實顯 宰相中將(十三) 橋本祖

實兼 從一位太政大臣 三位中納言(九)西園寺大納言(十三)春宮大夫(十二)左大將(正)二位(十三) 西園寺入道(十七)十八)

實兼 從一位太政大臣 三位中納言(九)西園寺大納言(十三)春宮大夫(十二)左大將(正)二位(十三) 西園寺入道(十七)十八)

公經 從一位太政大臣 大將(二)入道太政大臣(五)六)

實氏 母中納言能保女 從一位太政大臣 宰相中將(二)右大臣(四)五) 太政大臣(五)六)七)八)入道殿 常盤井入道(八)十)

公相 從一位太政大臣 春宮大夫(大納言(五)六)右大臣(大將(七)冷泉大臣(今出川) 太政大臣(八)太政大臣(九)

公基 從一位內大臣 大納言(五)內大臣(六)內大臣(大將(七))

守助 東寺長者 僧正(十三)

大宮院 嬪子後嵯峨后 母貞子 女御(四)五)中宮(五)大宮院 (六)七)八)九)十一)十二)十三)

東一二條院 公子後深草后 女御(七)中宮(八)東一二條院 (八)九)十一)十二)十三)十四)

實雄 山階左大臣  
大納言(五六)右大臣(八九)前  
左大臣(十)故大臣(十二)山階大臣(十三)

實藤  
中宮權大夫(五)中納言左衛門督  
(五六)大納言(十)

公重  
中宮權亮(七)  
室町宰相中將(十三)

實爲

女子  
大納言(十三)

公春  
室町三位中將(十六)室町宰相(十八)

清水谷  
實有

女子  
攝政道家室  
後醍醐天皇

公宗  
中納言(八十)

公雄  
少倉  
富小路三位中將(權中納言(十)中將(十三)富小路大納言(十六))

公守  
從一位左大臣  
左大將(十二)大納言(十三)

公風  
少將(十七)

京極院  
信子(龜山后)  
母榮子  
女御(中宮(八)九)皇后(八)

玄輝門院  
信子(後深草后)  
東方(八)十一(十三)三位(十三)  
玄輝門院(十三)十四(十五)十八

顯親門院  
伏見妃  
祿子(十二)伏見妃(花園女)

實教  
正二位權中納言  
中將(十三)富小路大納言(十六)

實泰  
從一位左大臣  
洞院三位中將(十三)左大臣(十六)十九

賢助  
東寺長者  
僧正(十八)

桓守  
天台座主  
僧正(十八)

女子  
十四伏見妃

公持  
正二位大納言(母北條義時女)  
皇后宮大夫(中納言(五))

公藤  
正二位大納言  
母洞院中納言(九)一條中納言(七)

季雄  
洞院中納言(十六)

公脩  
中納言(十七)

公賢  
從一位左大臣(母公雄女)  
春宮大夫(十六)右大將(十七)

公敏  
中納言左衛門督(十六)按察大納言(十九)洞院按察大納言(十九)

公泰  
權亮(宰相中將)大納言(十六)左衛門督(十七)中納言權大夫(十八)

○京極攝政師實裔

師實

師通  
關白內大臣  
家  
政  
中山  
雅教  
雅長  
家信

家忠  
後二條關白(十二)

經實  
經宗  
賴實  
忠雅  
兼雅  
忠定

師經  
家嗣

冬忠  
正二位內大臣  
中納言(六)大炊御門中將(十)

信嗣  
太政大臣  
真宗

冬氏  
從一位內大臣  
大炊御門中納言(十五)

氏忠  
正二位大納言  
權中納言(十六)

中山  
雅教  
雅長  
家信

忠親  
兼宗  
忠定

忠雅  
兼雅  
忠定

忠經

定雅  
右大臣  
母能保女  
大納言(五六)

師繼  
正二位大納言  
頭中將(五)皇后宮大夫(大納言(九)花山院大納言(十)花山院內大臣(十一)十四)

師信  
從一位內大臣  
花山院權大納言(十四)

師賢  
權大納言  
中宮權大夫(十六)大納言(十七)大納言(十八)十九  
入道花山院大納言(十八)十九

通雅  
從一位太政大臣  
中將(五)大納言(右大將(九)右大將(十)花山院太政大臣(十二))

長雅  
正二位大納言  
花山院中納言(八九)大納言(十)花山院大納言(十二)

家定  
從一位右大臣(母雅平女)  
花山院三位中將(十四)花山院右大將(十六)花山院入道右大臣(十九)

經定  
中納言  
花山院中納言(十六)

女子  
十九師賢室

雅平  
室町  
雅繼  
三位右中將  
中將(五)

基雅  
從三位  
中將(五)

家長  
從三位中納言  
花山院中將(十)

家教  
正二位大納言  
母通方女  
花山院中納言(十二)十三

女子  
十三龜山妃廊御方  
實田樂法師支驛女下野(十二)

女子  
從三位  
山院女房  
中納言典侍(十二)

冬信 從一位內大臣

宰相(十七)春宮權大夫(十八)大炊御門大納言(十九)

女子 (十九)女御代

忠教 賴輔

賴經 雅經 (一)參議

敦定 雅有 從二位 宰相(十七)

女子 宰相典侍(十七)

賴兼 左中將

忠季 少將(十)

女子 女御代(十二)

女子 御原殿(十四)

師藤 正二位大納言 大納言(十六)

女子 從三位 權大納言三位(十六)

經氏 從三位參議 宰相(十三)

經子 從三位伏見妃 後伏見母

忠繼 參議正四位下 宰相(十四)

宗親 談天門院 忠子、後 宇多妃 中納言典侍、准后(十四) 准后、談天門院(十六)

長俊 中將 五辻少將(十七)

信家

兼賴 長忠

忠朝 從三位 左兵衛督(十六)

東三條攝政兼家裔

坊門 水無瀨 中御門 持明院 御子左 京極

兼家 東三條大入道殿(五)

道隆 隆家 經輔 師信

信清 清親

隆清 清親

忠信 正二位權 大納言 坊門大納言(二)

信通 正四位下 右中將

道綱 經忠 坊門 信輔

兼經 敦家 敦兼 水無瀨 親信

基輔 坊門三位(十三)

女子 宰相君(十三)

道長 法成寺入道 殿(五)御堂 殿(十二)

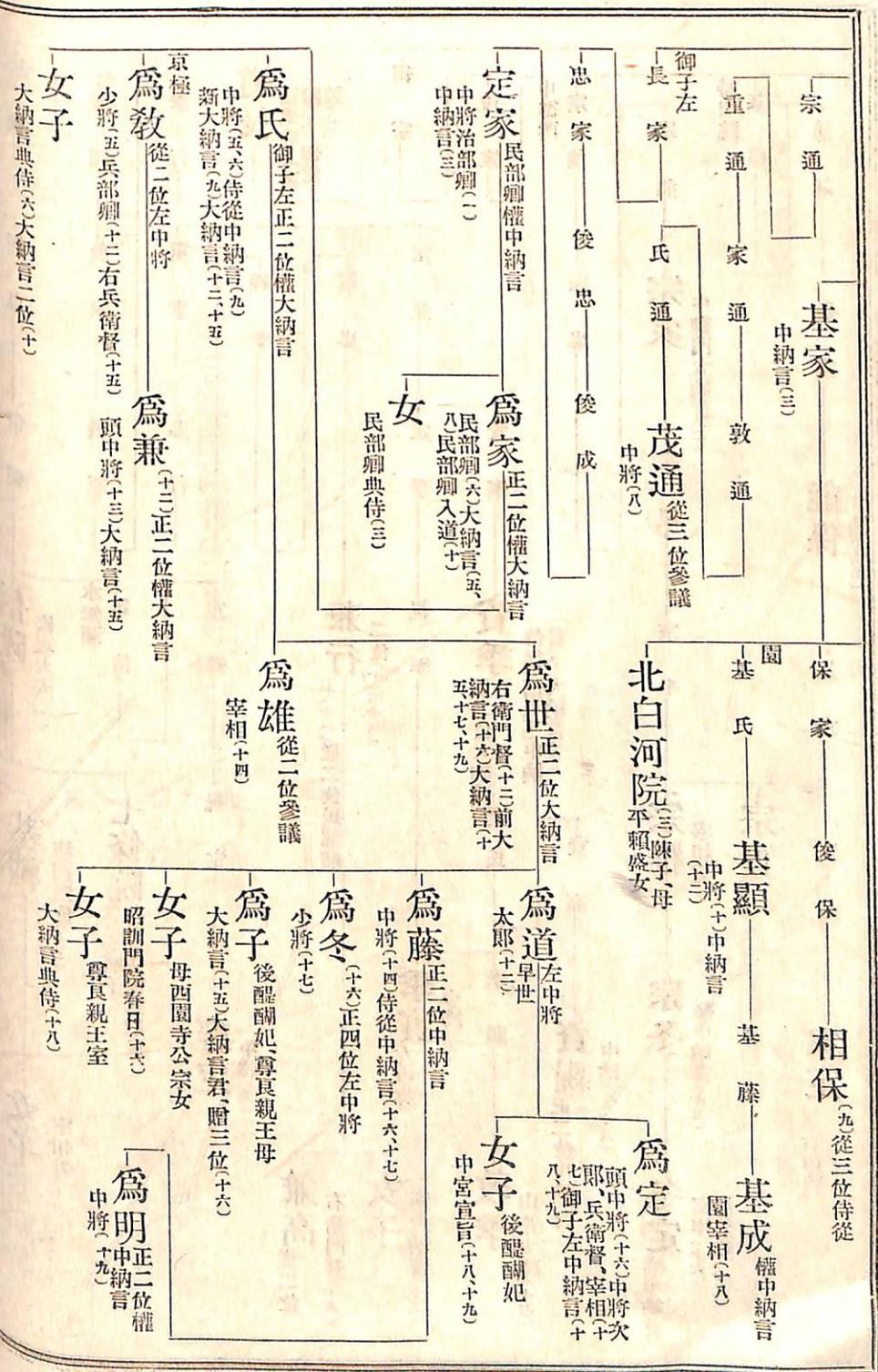
賴宗 定能 親忠 兼行 (十一)從二位民部卿 二位(十二、十三)

俊家 宗俊 宗忠 資家 資季 正二位大納言 侍從宰相(五)中納言(六)大納言(九)

中御門 宗俊 宗忠 資家 資氏 季實 左中將 少將(五)

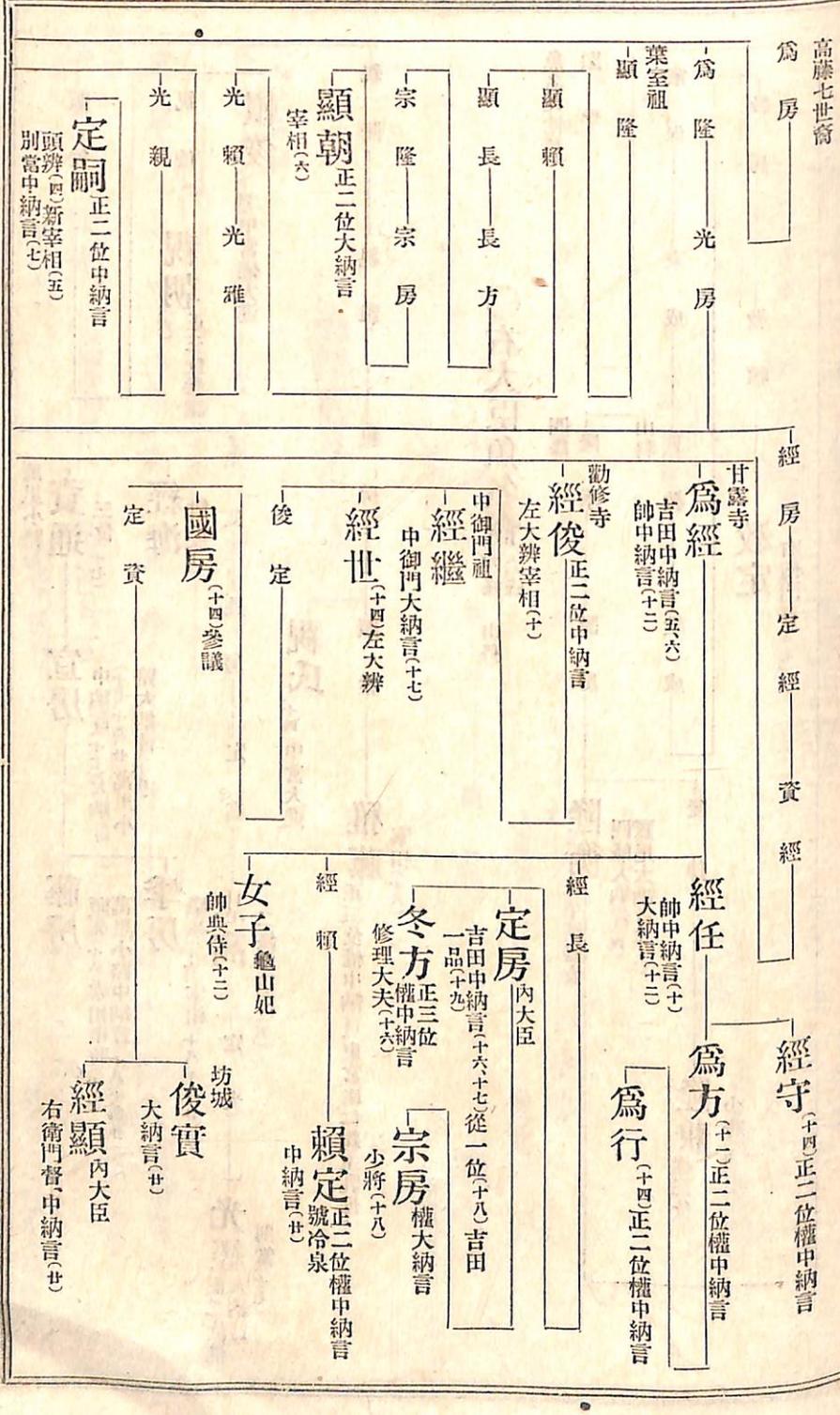
宗能 宗家 中御門大納言(二) 宗經 宗平 宗雅 宰相(九) 宗實 (十) 宗冬 權中納言(十二) 冬定 權中納言 宰相(十六) 治部卿(十八)

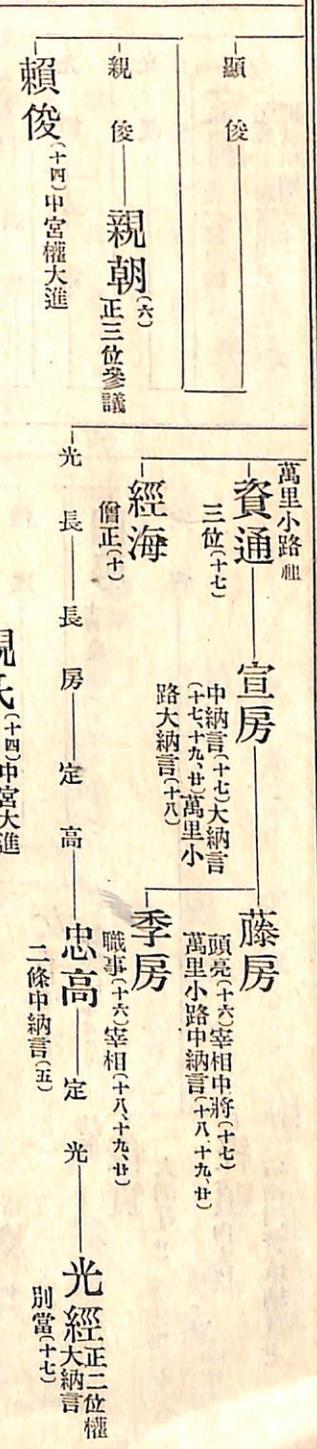
持明院 基賴 通基 通重 能保 中納言(二) 基宗 家能 家定 (五)右中將



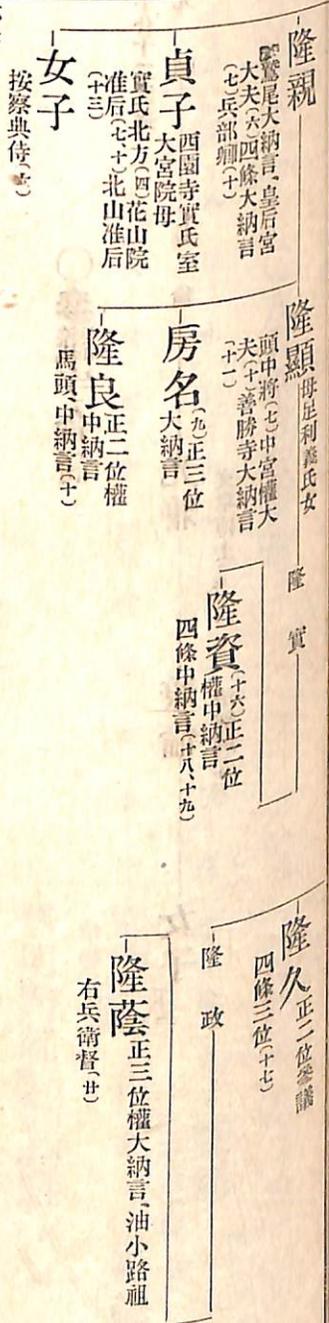
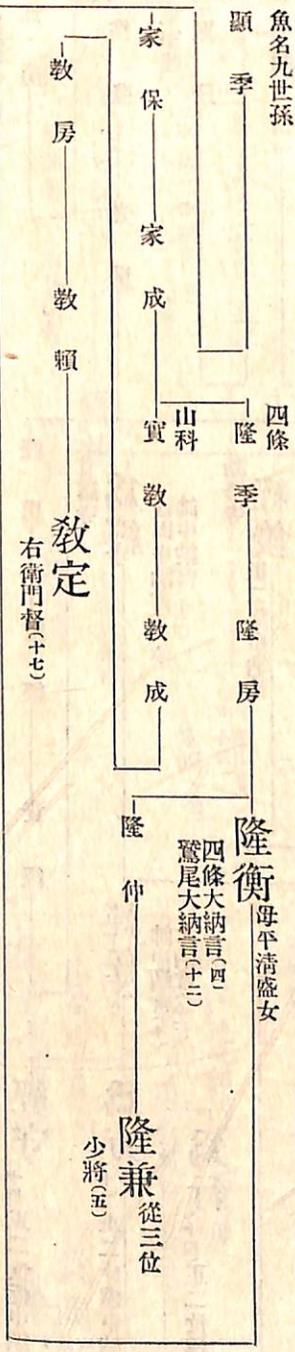
○內舍人良門子內大臣高藤裔

甘露寺 勸修寺 坊城 中御門

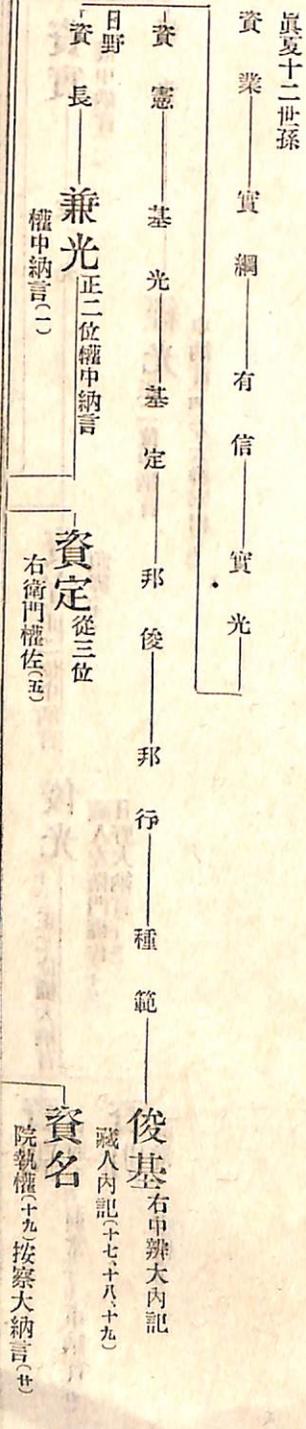




○右大臣魚名裔 四條 山科



○參議眞夏裔 日野



資實

家光

資宣正二位中納言

俊光正二位權大納言

資朝中將十六別當十七中納言廿

賴資

經光正二位中納言

頭辨十一

藏人左衛門權佐十三

資明別當十六宰相廿

○謙德公伊尹裔世尊寺

伊尹九世孫

經朝從三位左京權大夫

經尹

行房中將十九

女子後醍醐妃後源具行室

勾當内侍十九

○參議宇合裔

宇合十二世孫

長倫

光兼文章博士五

兼倫治部卿十三

女子十三

○左大臣武智麿裔

武智麿八世孫

成

季

永

實

永

範

孝

範

經

範

茂

範

廣

範

藤範式部大輔十六

範

繼

範藤十三從三位左中將

修明門院鳥羽妃順德母

範茂正三位參議

甲斐宰相三

源氏

○村上 堀河 久我 北畠 土御門 中院

村上天皇 具平親王 師 房 具親

俊房 師 賴 師 光 女子 宮内卿君(二)

顯房 雅 實 雅 定 雅通 (五)内大臣

國信 信時 顯信 清信 顯平 資平 中納言 親平 國資 宰相(十七)

輔通 中將(五)

輔時 少將(五)

通親 土御門内大臣(二、四)

通資 雅親 正二位 唐橋大納言(六)

通宗 贈左大臣 通子 (三)土御門妃 後嵯峨母 宰相中將(三) 贈皇后(四)

顯川 通具 正二位大納言 二耶右衛門督(二)

具定 (五)三位侍從

俊定 (十三)右少將

具實 基具 從一位大納言 政大臣

具守 從一位内大臣 堀河三位中將(七)春宮大夫(十三) 堀河大臣(十四)右大將(十五)

具俊

西花門院 基子 後宇多妃 後二條母 東御方(十三)西花門院(十五)

瑜子 (十四)後一條院女御代 基俊 正二位權大納言 號龜谷

久我 通光 從一位太政大臣 久我前内大臣(五)久我太政大臣(十二) 土御門

定通 正二位内大臣 大臣(四)後土御門内大臣(七)

顯定 正二位權大納言 土御門大納言(五六七)

顯親 從三位權中納言 權中納言(左衛門督(五))

顯良 正二位權大納言 少將(五)

通忠 大納言(六)中宮大夫(十)

通基 權中納言(九)右大將(十二)

通雄 從一位太政大臣 太政大臣(十六) 長通 從一位太政大臣 久我右大臣、皇太子傳 (十八世)

通有 有房 從一位内大臣 中將(十三)源中納言(十四)

雅忠 中將(十三)久我大納言 (九十三) 女子 三條(十三)

雅光 光忠 (十四)侍從

定實 從一位太政大臣、母雅親女 春宮大夫(十)前内大臣、太政大臣(十四)

通方 正二位大納言、號土御門大納言 源大納言(三四)

親定 正二位大納言 中納言、土御門大納言(十四)

雅房 正二位大納言 大納言(十四) 雅長 顯實 土御門中納言(十六)權大納言(十七)土御門大納言(十八)

通房 從三位參議 中將(十八)

親實 左中將 少將(十四)

親賢 中納言 宰相(十七)

通氏 具氏 中將(八)頭中將、宰相(九)新宰相 中將(七)

具忠 具顯 (十二)右中將

具親 從二位内大臣 堀河春宮大夫、中納言(十六) 堀河大納言(十七)

具雅 參議 中將(十八)

有忠 (十四)正二位權中納言 六條中納言(十七)

忠顯 參議右中將、號千種 少將(十八十九)

光忠 正二位權大納言 宰相中將(十六)

通成 正二位內大臣

三位中將檢非違使別當(五)左衛門督(六)大納言(七)土御門大納言(八)院司大納言(九)大臣(十)三條坊門內大臣(十三)

北島 雅家 母雅賴女(號萬里小路又北島)

土御門宰相中將(五六)前源大納言(十)源大納言(十三)

顯方 正二位大納言

少將(五)

通世

皇后宮權亮(六)

通行 正二位權大納言

宰相中將(五六)

通持

宰相中將(九)

通宣 參議

久我少將(十六)

承明門院 御門御母(實能因法印女)

女子(四)

通賴 從二位准大臣

左衛門督(九)源內大臣(十二)

通顯 正二位權中納言

中納言(九)

禪助

仁和寺僧正(十四)

顯子 實兼室公衡母

二位殿(十三)

女子 一條殿(十三)

通重 內大臣正二位

左衛門督(十三)中院內大臣(十七)八)

女子(十七)鷹司冬平室

通教 正二位內大臣

中院前大納言(十六)十八)春宮大夫內大臣(十九)世)

女子(十八)邦良親王妃

通冬 從一位權大納言

少將(十六)別當(廿)

親房 准三后、世良親王御めの

大納言(十六、十七)源大納言(十八)

顯家 從二位權中納言

宰相中將(十八)

女子 大納言典侍(十六)

女子 小大納言君(十六)

師親 正二位權大納言

右衛門督(九)

師行

女子 近衛殿(十三)

具行 源中納言(十八)十九)

推行 (可)參議從三位

師重

萬里小路大納言(十四)十六)

親子 後醍醐妃 民部卿三位(十八)

親房

大納言(十六、十七)源大納言(十八)

顯家 從二位權中納言

宰相中將(十八)

女子 大納言典侍(十六)

女子 小大納言君(十六)

○宇多敦實親王裔 綾小路

敦實親王八世孫

時賢

有資 正二位權中納言

左兵衛督(五)前源宰相(七)

信有

有時

綾小路宰相(十六)

有賴

宰相(十六)

○清和貞純親王裔

貞純親王五世孫

義家

義親

為義

六條判官(三)

義國

義重

新田祖

義康

足利祖

義朝

左馬頭(三)

賴朝 三男

權大納言(右大將)征夷大將軍(三)

女子 中納言能保室(三)

賴家 母北條時政女(政子)

從三位、左衛門督、征夷大將軍入道(二)

實朝 母同

內大臣、權大納言、右大將、左馬寮馬監(三)

一萬 (一)

公曉 (三)

平氏

桓武天皇—葛原親王

高棟王—惟範—時望—真材—親信—行義

範圍—經方—知信

時信—親宗—親國—有親—時繼正二位權大納言—經繼正二位權大納言

信範—信國—時兼—兼親—高兼—惟繼正二位權中納言—兵衛佐(十二)

信基—親輔—範輔—高輔—信輔—惟輔—成輔正三位參議

行親—定家—實親—範家—棟範左中辨六—棟基—棟子後嵯峨妃宗尊親王母

高見王—高望王—良望—貞盛鎮守府將軍—宗盛從一位內大臣

維衡(三)太郎上總介—正度—正衡—正盛—忠盛—清盛從一位太政大臣—建禮門院(二)德子

維將—維時上總介(三)—維方—直方—時方—時家—時政平四郎遠江守(二)

宗時(三)太郎

義時右京權大夫(三)

時房(三)修理權大夫

政子(三)賴朝室

泰時(二)四五

重時

時茂陸奥守(九)  
憲時(十四)

政村四郎左京權大夫(九)

實泰—實時—顯村—貞顯(廿)左近大夫將監號金澤

貞直號大佛  
陸奥守(十九)

時藤

清時

時直

增鏡系圖終

增鏡年表

(備考) 一 この表、當時の大勢を見易からしめんが爲に、作れるものなれば、必ずしも、本書に記せる事のみに限らず、或は皇居仙洞の如き、補任叙位の如き、他の史志によりて詳記せる類いと多し、

一 この表、上欄に卷名を掲ぐさいへども、本書の紀事、もとより重複せる所あり、また筆のついでに任せて、年代の前後せる類少ならず、そは紀事の欄にかぎり、皆下に、( ) を施して、所載の卷の名を記せり、

一 この表、月日を記すに、たゞ数字のみを用ふ、例へば、正月五日を、正五、二月十五日を、二五、十月二十日を、十廿、十二月十日を、十二とやうに記し、閏月は、壬の字を加へ、前條と月同トきは、同月、日同トきは、同日、月日共に詳ならざるは、たゞ、月日と記せり、但し、崩薨卒年とある下の数字は、皆その享年なり、また特に、立坊は○を付し、皇居仙洞は△を、出家は□を崩薨卒は●を付して標せり、但し紀事の欄なるはこれを付せず、

下のろどお	卷名	年號	天皇	上皇	攝政	關白	大臣	將軍	軍執	權	兩六波羅	紀事
二年	壽永	二年	後鳥羽 尊成 八廿立坊即 △閑院殿	後白河 法皇雅仁 十一讓位嘉應元 六十七落飾法名 △行眞 十九在法住寺殿十一 十六條西洞院第二 同月日白川押小路殿	攝基房 八廿上皇詔 十一廿一止 攝師家 十一廿一詔	左藤經宗 仁安元十 右藤兼實 永萬二十 内平宗盛 壽永元七 二廿七止八六除名 内藤實定 四廿五任十 内藤師家 任十一廿一	源賴朝 前右兵衛 北條時政					七廿五平宗盛奉安 德帝奔于西海(新島守)

卷名 年號 天皇△皇居 上皇△仙洞 攝政關白 大臣 將軍 軍執 權兩六波羅 紀事

下のろどお

元曆	元治	三年	二年	四年	五年
元曆 △四十六押小路殿	元治 △七廿二大炊 御門富小路 殿十二廿三 閑院殿	三年 △八十二大炊 殿十一十三 閑院殿	二年	四年	五年
攝師家正廿止 攝基通正廿詔	攝基通三十二 止 攝兼實三十二				
内師家正廿止 内藤實定正廿任元	右兼實十七止 右藤實定元廿九任 内藤良通九任		●内良通二廿薨		
位下 三廿七正四	位 四廿七從二				
七廿八天皇即位○ 十一十八大嘗會	三廿四安德帝崩于 檀浦平氏一族滅 (新島守)○四月日 建禮門院歸洛(同 上)	四廿二安德天皇追 諡○六廿八股富門 院々號○九廿千載 集成	四十三六條西洞院 殿火	七廿上西門院崩	

元建久	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年
元建久 △十二十六法住寺	●三十三崩年六十 六同十五葬法性 寺法華堂 △月日六條殿					内十一廿三大 閑院殿	御門第十六大炊 閑院殿
	關兼實七詔元 攝					關兼實十一廿 五止 關基通十一廿 五詔	
左兼實四十九止 左藤實房元七十七任 右藤兼雅同日任元 内藤兼房同日任	太藤兼實元前右 左藤實定元前右 右藤實房同日任	●前左實定六廿出家 壬十二薨	内藤忠親同日任	内藤良通十一十任	内忠親七廿六止十 二十五出家	太兼房十一廿八止 左實房三廿三止四 廿五出家	
納言廿四右 大將十二四 辭兩官	七十二征夷 大將軍						
正三天皇元服○四 廿三稱朝上洛(新 島守) 十三稱朝上洛(新 島守)	天皇御親政○六廿 五宣陽門院々號	十一八股富門院落 飾				三三賴朝上洛(新 島守)○同十二東 大寺供養(同上)○ 十一十二土御門院 降誕	九十順德院降誕

年表 ○元曆○文治○建久





下のろどお					卷名
二年	三年	四年	承元	二年	年號
△廿五内 △廿二一三條	△七十一冷泉 殿十一大炊	位十一廿五 順德守成 △在押小路殿 △大炊殿	△十一廿七 大炊殿	△在五辻殿水無瀨 殿高陽院殿等	天皇 △皇居 ○太子
△本院在高陽院殿	△八三押小路殿 二廿高陽院殿	後鳥羽本院 土御門新院 十一廿五尊號			上皇 △仙洞
				□前攝基通十五 出家	攝政關白
左隆思月日止 右藤公繼 内藤信清 同日任	太藤實正廿一止 右道經三廿六止 右藤良輔元四十一任 内藤公繼同日任	右藤道經元七十九任 内藤良輔同日任	太藤賴實元十七任 右忠經元五十八任		大臣
正五正三位	四十從三位 右中將	十二正四位下			將軍
					執權
					兩六波羅
正十三宜秋門院 院號并年官年爵 院號并年官年爵 院號并年官年爵	正廿二東一條院立 后○六廿六八條院 崩年七十五○十一 八春華門院崩年十一 七○十二四承明門 院落飾	三十九陰明門院 號○四十二坊門院 崩年卅四○十二 天皇即位○十二 九東一條院入内	四廿五春花門院		紀事
				十一廿七閑院殿火 成親王元服	

新島守					建保
六年	五年	四年	三年	二年	元保
○十一廿六懷 成親王立坊				△二廿四高陽 院殿四廿閑	△二廿七閑院 院殿或高陽院
			△新院十一晦土御 門殿		
太藤公房元正十九任 ●左良輔三卅服解十 一十一薨 左藤道家元十二任 右源實朝同日任元 内源實朝正十九任 内藤家通十二任	●入道前太兼房二廿 六薨年四十七	□前太賴實正廿八出 家	右公繼十九止 右藤道家元二十任 内藤公房同日任 □前内信清二十八出 家	□前右藤經十二廿三 出家	□前右藤經十二廿三 出家
正十三權大 納言三十九 大將十九 右大臣十三	六廿權中 納言	正十三從 四位下	時政正六 卒	十二正二位 位	十二正二位 位
	正廿八左 京權大夫 陸奥守			五廿七正 位下	五廿七正 位下
九廿一山菜徒神興 振		三月日新院百首御 詠○四一般富門院 崩年七十	十廿四天皇名所百 炊殿製○十一晦大 首御製	三廿六春日行幸○ 六十嘉陽門院々號 ○九月撰歌合○十 十一懷成親王降誕○ 宣下	院號并年官年爵 院號并年官年爵 院號并年官年爵

年表 ○建曆 ○建保

卷名年號  
天皇  
上皇  
攝政關白  
大臣  
將軍  
軍執權  
兩六波羅  
紀事

承久元年  
二月  
四月  
正廿七公曉紙實朝

三年  
二月  
四月  
攝政關白  
太公房  
太藤家實  
左藤家通  
右藤公繼  
內藤公經

貞應元年  
三月  
四月  
太家實  
太藤公經  
內藤師經

衣

二年 △五十九土御門殿 △後高倉五十四扇 關家實 廿四 詔元攝 太公房 四二止	元仁元年 廿一 ●左家通八十一薨 左藤公繼 十二廿五 右藤師經 同日任元 內藤良平 同日任	嘉祿元年 廿四 ●入道前太賴實薨年 七十一	二年	安貞元年 十改 ●左公繼正廿三止同 廿薨 左藤良平 四九任元 右師經 四二止 右藤教實 四九任 內藤兼經 同日任
元仁元年 廿一 泰時 六月十三出 泰時補 六月十二 時房 同日 泰時時房 六月廿七下 向關東 北時氏 六月廿八入 南時盛 權助 月日入 洛	元仁元年 廿一 泰時時房 六月廿七下 向關東 北時氏 六月廿八入 南時盛 權助 月日入 洛	嘉祿元年 廿四 泰時時房 六月廿七下 向關東 北時氏 六月廿八入 南時盛 權助 月日入 洛	二年	安貞元年 十改 時氏 四廿 修理 權亮 廿三 向關東 二廿安喜門院々號

年表 ○承久○貞應○元仁○嘉祿○安貞

卷名 年號 天皇△皇居 上皇△仙洞 攝政關白 大臣 將軍 軍執 權 兩六波羅 紀事

安貞二年 關家實十二廿四止 關道家四十二廿四詔

寬喜元年 入道前右忠經八五 入道前右道經七廿九

三年 關道家七五止 關教實 左良平四十八止 左藤教實四十六任 右藤兼經同日任 內藤實氏同日任

貞永四年 十四讓位 秀仁 後堀河院 十七尊號 冷泉宮小路第 攝教實十四詔 前攝師家九六出家

天福元年 九十八近衛富小路第廿九冷泉宮小路第 入道前攝基通 十四廿九薨年七

嘉禎元年 攝教實廿八止 攝道實廿八 攝道實廿八 攝道實廿八 攝道實廿八

二年 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔

三年 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔

元曆元年 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔

元仁元年 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔

元文元年 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔

元文元年 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔

元文元年 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔 攝道實三十詔

年表 ○寬喜○貞永○天福○文曆○嘉禎○曆仁

卷名	年號	天皇	上皇	攝政	大臣	將軍	軍執	權	兩六波羅	紀	事
天皇	延應元年 改二七	○皇居 △太子	△仙洞	關白	大臣	將軍	軍執	權	兩六波羅	紀	事
天皇	仁治元年 六七十改	○皇居 △太子	△仙洞	關白	大臣	將軍	軍執	權	兩六波羅	紀	事
天皇	寬元元年 八廿改	○皇居 △太子	△仙洞	關白	大臣	將軍	軍執	權	兩六波羅	紀	事

野	雪	山	神	三	衣	方	ふ	卷名
二年 △七廿六兩院	三年	三年	二年	二年	仁治元年 六七十改	延應元年 改二七	天皇	天皇
正廿九讓位 後深草久仁 △冷泉萬里小 路殿二十三 閑院殿	正廿九讓位 後嵯峨院 △萬里小路殿 六土御門殿 六條殿	正九崩年十 順德九十二崩年 五十六	攝兼經正廿止 關兼經正廿二 關良實三廿五 ●入道前關家實 六十二	攝兼經正十九 攝兼經正十九 攝兼經正十九	太藤兼經十二廿四 右實親九廿七止 右藤實經十廿任 內家嗣十九止 內藤家良十廿任 ●入道前太良平三十 七薨年五十	時房正廿 六卒年六 十六	泰時九 正四位下	十一十二式乾門院 々々號
攝兼經正十九 攝兼經正十九 攝兼經正十九	關良實正廿八 攝兼經正廿八	攝兼經正十九 攝兼經正十九 攝兼經正十九	攝兼經正十九 攝兼經正十九 攝兼經正十九	攝兼經正十九 攝兼經正十九 攝兼經正十九	攝兼經正十九 攝兼經正十九 攝兼經正十九	攝兼經正十九 攝兼經正十九 攝兼經正十九	攝兼經正十九 攝兼經正十九 攝兼經正十九	攝兼經正十九 攝兼經正十九 攝兼經正十九

年表 ○延應○仁治○寬元○寶治

烟の末々

三年 △六廿七閑院殿	二年 △八廿七鳥羽殿	建長元年 △二一冷泉富小路殿 △月日冷泉萬里小路殿	寶治二年	卷名 天皇△皇居○太子
□前内具實三四出家 位六廿七從三位 時賴六廿七正五位	内實基四廿九止 内源具實五十七任止 内藤道長二十五任	□前内家嗣十七出家 入道前太公房八十六 六薨年七十一	●太道光正十七止同十八薨 位上八廿五從四位	天皇△皇居○太子
正二武乾門院崩年 五十五○五五諸臣 九獻藥玉兒花等○諸臣	三廿七仙華門院 號御幸○八廿七鳥羽殿 羽移幸○九廿七鳥羽殿 天三公事御遊幸○日	及基無禮○同四上府 御入宮○助法親王 同廿八○二法親王 大殿火入○三二法親王 是月連日○有火燒院 廿七日山院降誕	正一院拜禮內府 基無禮○同四上府 及基無禮○同四上府 御入宮○助法親王 同廿八○二法親王 大殿火入○三二法親王 是月連日○有火燒院 廿七日山院降誕	六十八宮院 ○八十八宮院 ○十廿八宮院 ○十廿八宮院 ○十廿八宮院 ○十廿八宮院 ○十廿八宮院 ○十廿八宮院

おりのる雲

四年	五年	六年	七年	康元元年 改十五	雲るおりの
攝兼平十三止太藤兼平十三任元 左藤道長右藤道長 右藤道長内十一任元 轉左 右藤定雅元十一任 内藤定雅元十一任 内藤公相元十一任	關兼平十二詔元攝	太實基二十一止 右定雅二十一止 右藤公相十二廿五 内藤公基同日任	太兼平十一八止 太藤實基元廿四 □前右實親九三出家	△七三五條大宮殿	□前右師經九月日出 □家前右定雅十一廿七 □出家
三品 三十九征夷 大將軍四二 下向關東	●賴經八十九 ●賴嗣八廿四 ●薨年十八	□時賴三十一 □重時三十一 □一重時三十一 政村一重時三十一 陸奥位從下 署七月日連 長時署七月日連 守七廿武藏署日	長時三廿 四下向關 東時茂六 日入洛	○七神仙門院々號 ○十廿五嵯峨淨金 剛院成○十一十七 東二條院入内	○前右師經九月日出 □家前右定雅十一廿七 □出家
正三天皇元服○三 吉及天皇寺○八 九永安門院落飾	十廿七龜山殿移徙 (おりのる雲)	十廿七龜山殿移徙 (おりのる雲)	十廿七龜山殿移徙 (おりのる雲)	十廿七龜山殿移徙 (おりのる雲)	十廿七龜山殿移徙 (おりのる雲)

年表 ○建長○康元

三年	二年	元文永 八年改	三年	二年 内裏
	△五七五條大 宮殿八廿四 路條萬里十 殿六條十小	△後嵯峨十一三禪 林寺殿		△後深草月日冷泉 富小路殿
	關長實壬四十 八止 關實經 壬四十 八詔			
	左實經十五止 左藤基平十五任元 右藤基忠同任元 内藤冬忠同日任 □前太實基九十五出	●前内家長九十薨年 七十三	左實雄三廿止 左藤實經八十三遷 任元前左	内藤基忠 正廿六任
惟康王 征夷大將軍 位下	中務卿			
政村三二 正四位下	時宗三廿 四相摸守 五從五 政村三 八夫左京權	●長時七三 出家八廿 一卒年三 十五 時宗一八 一卒年三 十五 時宗一八 一卒年三 十五		
	時輔四廿 一從五位 下式部丞	南時輔一十 九入落		
三十二續古今集覽 宴四廿七蓮華王 院供養○北野雪王 八十八大風明堂倒	七十一伏見院降誕	二月日行幸龜山殿 ○五一後嵯峨上皇 書寫如法經號○七廿 七月華門院々號○廿 九十三龜山殿歌合		

山のものみち葉			おりのる雲		卷名 年號
元弘長 改廿年殿	元文應 改十四年殿	元正元 改廿年殿	二年 ○八七恒仁親 王立坊	元正嘉 改十四年殿	天皇△皇居 ○太子
△月日富小路 殿	△十二月日五 條大宮殿	△五廿二三條 坊門殿冷泉 萬里小路殿 十一廿六讓 龜山恒仁位 十一廿六受 △冷泉萬里小 路殿		△四十三三條坊門 殿	上皇△仙洞
△本院月日冷泉富 小路殿	△本院四一二條富 倉殿同八九二條高 峨	後嵯峨本院 △三條坊門殿 後深草新院 十二尊號 △冷泉萬里小路坊 殿 十二二十七三條坊 門殿		□前攝兼經三八 出家	攝政關白
關兼平四廿九止 關真實詔四廿九	□前太實氏十一三出 家	●入道前攝兼經 五十四薨年五十 ●左道長十一八出家 同廿六薨 左藤公相十一十四 任元前右	右公基月日止 右藤實雄十一一任 元内 内藤基平同日任	右藤公基十一廿六 任元内 内藤實雄同日任	大 臣
					將軍
					軍執
				政村六廿 二相模守	權
				時茂六廿 二左近將 監從五位 下	兩六波羅
					紀
				正廿九東二條院立 后○二廿八五條大 宮殿火○七五承明 門院崩年八十六	事

年表 ○正嘉○正元○文應○弘長○文永

草 ま く ら	北野雪				あすか川		卷名 年號
	七年	八年	九年	十年	六年	五年	
正廿六讓位 後宇多世仁 正廿六受禪	御親政	御親政	御親政	御親政	親王立坊	親王立坊	天皇 ○皇子 △太子
後深草本院 富小路殿 龜山政務殿 △押小路殿	後嵯峨正十七嵯 峨殿 後嵯峨二十七年 崩	後深草月日六條 殿月日冷泉富小 路殿	後嵯峨正十七嵯 峨殿 後嵯峨二十七年 崩	後嵯峨正十七嵯 峨殿 後嵯峨二十七年 崩	後嵯峨十五落飾 法名素覺 嵯峨六月日二 條萬里小路殿十 五龜山殿	後嵯峨十五落飾 法名素覺 嵯峨六月日二 條萬里小路殿十 五龜山殿	上皇 △仙洞
攝忠家 正廿六 詔元關 六廿止 攝家經 六廿詔	關基忠 五五止 五五詔	關基忠 五五止 五五詔	關基忠 五五止 五五詔	關基忠 五五止 五五詔	關基忠 十二止 九薨	關基忠 十二止 九薨	攝政關白
前右公基十二十四 薨年五十五	入道前大實基二十 四薨年七十二 前左實雄八四出家 同十六薨年五十七	右通雅三十止 右藤師忠三廿七任 元內 內藤師繼 同日任 入道前內家嗣七八 薨	右通雅三十止 右藤師忠三廿七任 元內 內藤師繼 同日任 入道前內家嗣七八 薨	右通雅三十止 右藤師忠三廿七任 元內 內藤師繼 同日任 入道前內家嗣七八 薨	左基忠三一止 左藤家經四廿三任 元右 右藤通雅 同日任元 內源通成 同日任十 九止 內藤師忠十一廿八 入道前大實基六十七 薨	左基忠三一止 左藤家經四廿三任 元右 右藤通雅 同日任元 內源通成 同日任十 九止 內藤師忠十一廿八 入道前大實基六十七 薨	大臣
宗尊親王七 廿九薨年三 十三	正五從二位 卅出家	正五從二位 卅出家	正五從二位 卅出家	正五從二位 卅出家	左藤家經 同日任元 右藤通雅 同日任元 內源通成 同日任十 九止 內藤師忠十一廿八 入道前大實基六十七 薨	左藤家經 同日任元 右藤通雅 同日任元 內源通成 同日任十 九止 內藤師忠十一廿八 入道前大實基六十七 薨	將軍
政村五 廿八出家同 廿七卒年 六十七 義政 五 廿七下 藏署七 守七 武連	政村五 廿八出家同 廿七卒年 六十七 義政 五 廿七下 藏署七 守七 武連	政村五 廿八出家同 廿七卒年 六十七 義政 五 廿七下 藏署七 守七 武連	政村五 廿八出家同 廿七卒年 六十七 義政 五 廿七下 藏署七 守七 武連	政村五 廿八出家同 廿七卒年 六十七 義政 五 廿七下 藏署七 守七 武連	九時 宗正 左馬 九 權頭 三 三 權 三 執權 三 政 三 還 子 爲	九時 宗正 左馬 九 權頭 三 三 權 三 執權 三 政 三 還 子 爲	軍執
時輔二十 五卒年廿	時輔二十 五卒年廿	時輔二十 五卒年廿	時輔二十 五卒年廿	時輔二十 五卒年廿	北義宗一 廿七入洛 不豫	北義宗一 廿七入洛 不豫	兩六波羅
二月七日 始龜山上皇御幸 ○是月兩上皇御幸 ○故法皇即位 ○廿六天皇即位 ○廿九大嘗會	春東宮世仁親王依 春例治○八十二嘉 陽門崩年七十三 ○十院崩年七十二 ○同廿冷泉高倉 殿火	二月十一日 法皇遺詔○同廿二 藤原公雄出家○同 廿三宮院落飾○同 廿八京極院號飾○同 日崩年廿八	二月十一日 法皇遺詔○同廿二 藤原公雄出家○同 廿三宮院落飾○同 廿八京極院號飾○同 日崩年廿八	二月十一日 法皇遺詔○同廿二 藤原公雄出家○同 廿三宮院落飾○同 廿八京極院號飾○同 日崩年廿八	二月十一日 法皇遺詔○同廿二 藤原公雄出家○同 廿三宮院落飾○同 廿八京極院號飾○同 日崩年廿八	二月十一日 法皇遺詔○同廿二 藤原公雄出家○同 廿三宮院落飾○同 廿八京極院號飾○同 日崩年廿八	紀事

年表 ○文 永



卷名	年號	天皇	皇居	上皇	仙洞	攝政	關白	大臣	將軍	軍執	權	兩六波羅	紀事
八弘安	十年	十讓位 伏見 熙仁	△富小路殿	後深草本院 殿 常盤井殿又六條	龜山 中院 △七二禪林寺殿或 在松下殿萬里小 路殿等	關兼平八十一 止 關師忠八十一	太基忠八十三止	左師忠六廿八止 左藤忠教元七十一任 右藤家基同日任元	右大將 六五中納言	貞時正五 從五位上	●業時六上 八出家同	時村八十 四下向關	二廿准后貞子九十 賀天皇行幸西園寺 ○八廿三延政門院 落飾
九年	元正應 八改廿		△後宇多九七二條殿				□前内公親三十出家	内藤通基同日任元 内源通基同日任元 内藤兼忠 廿七止	王 月日二品親	宣時正五 八武藏位下 署八藏位連		北兼時元 南盛房 四 同入浴 近衛監	三三後伏見院降誕 ○三十五天皇即位 ○六二永福門院入 内八二同立后 十二十六支輝門院

今日の日の影

元正應 八改廿

後深草本院殿 常盤井殿又六條 龜山 中院 △七二禪林寺殿或 在松下殿萬里小路殿等

關兼平八十一止 關師忠八十一

太基忠八十三止 左師忠六廿八止 左藤忠教元七十一任 右藤家基同日任元

右大將 六五中納言 王 月日二品親

宣時正五 八武藏位下 署八藏位連

時村八十 四下向關

三三後伏見院降誕 ○三十五天皇即位 ○六二永福門院入内八二同立后 十二十六支輝門院

つげの小櫛

五年	四年	三年	二年
		御親政 △三十春日殿 路殿 △六十九富小路殿	親王立坊七 △山九七落飾 名金剛寺
		後深草二十一落 飾法名素實	關家基四十三 止
		前關兼平三卅 出家	關家基五廿七 止 關忠教 五廿七 詔
内藤實重 十一五任	内藤公孝 十二廿五任	太基具三十三止 内實兼四廿五止 内藤信嗣 六八任 内藤公守 十二廿五任	太基具三十三止 内實兼四廿五任 右藤兼忠 元八任 内藤實兼 同日任
太實兼十二廿九止 内公孝八八止 内藤實重 十一五任	内藤公孝 十二廿五任	太基具三十三止 内實兼四廿五止 内藤信嗣 六八任 内藤公守 十二廿五任	太基具三十三止 内實兼四廿五任 右藤兼忠 元八任 内藤實兼 同日任
			久明親王 三品十九征 夷大將軍同 十下向關東
			從三陸奧守 四位下
			朔門院 關東院 明門院 平院 崩年廿四
九九大宮院崩年六			三南殿獅子狛犬 怪異同九淺原爲 頼犯禁關天皇潛幸 春日殿○龜山後宇 多兩上皇賜警書于 關東院落飾○十八 朔門院崩年廿四

年表 ○正應

卷名 年號 天皇△皇居 ○太子 上皇△仙洞 攝政關白 大 臣 將 軍 執 權 兩六波羅 紀 事

櫛小のげつ

四年	三年	二年	元永仁 六年
△後深草正月十三 御門殿月日常盤 井殿			
●關家基六十八 止同十九 關兼忠 詔七廿四		□前關師忠十一 廿九出家	關忠教二廿五 止 關家基二廿五 詔前關 前攝家經十二 十一薨
左兼忠十二廿五止 左藤兼基十二廿七 右藤師教同日任元 內源定實同日任元 內源通雄十一三出			內實重正廿一止 內藤師教正廿八任
	●久時十二 守廿九越後 前北兼時 九十八卒		兼時正九 下向關東 即上洛三 西下向鎮 北久時 少輔四 入洛
正廿二新陽明門院 崩年卅五○八十一 昭慶門院々號		正十四三條萬里小 路殿火○六七永陽 門院々號○六廿遊 義門院入上皇宮○ 十廿五條院崩 年三十三	六七東二條院落飾

二十四

五年	六年
△四十八土 同門東院殿 高倉殿 △後宇多月日萬里 小路殿	七廿二讓位 後伏見胤仁 △冷泉宮小路 殿冬二條富 ○八十邦治親 王立坊
	後深草 新法皇 △常盤井殿 龜山 法皇 △禪林寺殿及萬里 小路西殿 後宇多 中院 △萬里小路南殿 伏見 政務 七廿二脫履 △二條高倉殿冬冷 泉富小路殿
	攝兼忠 七廿二 詔元關 攝兼基 十二廿 詔十二廿
內通雄六十二止 內藤公衡六十三任	
	●盛房五十一 東七九卒 北宗方 從五 位下左近 將監七六入洛 南宗宣 前上 野介七廿七入 洛
	號八廿一永福門院々

年表 ○永仁

二十五

櫛小のげつ

三年	二年	正安元年 元安 改廿五	天皇 ○皇居太子	上皇 △仙洞	攝政關白	大臣	將軍	執權	兩六波羅	紀事
正廿一讓位 後一條邦治 ○八廿四富仁親王立坊	△伏見三九冷泉宮小路殿	△後深草月日冷泉宮小路殿 △伏見月日常盤井殿			關兼基九十二元	太藤公守前內十三 止 太藤兼基十一廿一 左兼基四十四止 左藤師教四廿六任 右藤公衡同廿二任 止 右藤公孝十二廿七 內藤公孝四廿六任 轉右 內藤冬平四廿六任 □前太實兼六十一出家				正三天皇元服○五 三室町院崩年七十
後深草新法皇一 龜山法皇 後宇多本院 伏見中政務 後伏見新院正廿 △後深草八五伏見 △伏見四廿四持明院殿 △伏見月日冷泉宮小路殿	△龜山冬常盤井殿				太藤定實六二任元前內	大兼基四十九止				正月日內侍所注連 ○同十七關東遣 使奏讓國○三廿四 天皇即位○十九昭 訓門院々號○十九 廿大嘗會○十二廿 七神門院崩年七 十一
三年	二年	嘉元元年 元安 改八五								
△七十二條高倉殿	△六十四冷泉宮小路殿	△後深草七十六崩年六十二 ●龜山十一二二條高倉第 △後宇多六十四萬里小路高倉殿七 月日二條高倉殿 △伏見十月日富小路殿 十二月日持明院殿				左師教十二廿七止 左藤冬平十一廿二任元右 右藤家平同日任元 內藤家平十二廿一任元 轉右 內藤實家十二廿一任元准大				
三年	二年	嘉元元年 元安 改八五								
△七十二條高倉殿	△六十四冷泉宮小路殿	△後深草七十六崩年六十二 ●龜山十一二二條高倉第 △後宇多六十四萬里小路高倉殿七 月日二條高倉殿 △伏見十月日富小路殿 十二月日持明院殿				太公孝三十三止 ●內實十二廿七薨	月日一品			
三年	二年	嘉元元年 元安 改八五								
△七十二條高倉殿	△六十四冷泉宮小路殿	△後深草七十六崩年六十二 ●龜山十一二二條高倉第 △後宇多六十四萬里小路高倉殿七 月日二條高倉殿 △伏見十月日富小路殿 十二月日持明院殿				左師教十二廿七止 左藤冬平十一廿二任元右 右藤家平同日任元 內藤家平十二廿一任元 轉右 內藤實家十二廿一任元准大				

年表 ○正安○乾元○嘉元

櫛小のげつ			島 千 ら う		三年						
卷名	年號	天皇	上皇	攝政	關白	大臣	將軍	軍執	權	兩六波羅	紀事
	德治元 十二年 四月	天皇 △皇后太子	上皇 △仙洞	攝政 關白	大 臣	將 軍	軍 執	權	兩六波羅	紀 事	
德治元年	後伏見十二廿九 常盤井殿	後宇多七廿六落 飾法名金剛性 後宇多二廿四今 △後伏見夏今小路	攝師教 八廿六 十一廿 攝冬平 十一 前關兼基七廿 出家	前關忠教正卅 出家	大實家十五廿五任 太藤信嗣 元前 左冬平三十四止 左藤公衡 元前右六 十五止 左藤家平 元前右五 十五任	守邦親王 三品	七九上落	北貞房 前越 守十一廿 七入落	時範八十 八卒年卅	時範月日 備前守 貞顯月日 越後守 落飾 ○同十五昭慶門院	正四天皇元服
應長元年 八廿	伏見月日常盤井殿 三持明院殿 △後伏見月日常盤 殿或在六條殿 持明院殿等	△伏見七十二六條 殿同十六持明院 殿 △後伏見七十二六 條殿同十六常盤 井殿	關冬平 三十五 詔元攝	太冬平四廿四止 前太信嗣三廿出 家 前左公衡八廿出 家	師時九廿 一出家同 廿六卒年 卅七	熙時 卅七 相摸 署十三連	北貞顯 武藏 南時敦 守 後越		貞房十一 十八卒 貞顯正十 七下向關 東(即上 洛賦)	正三章義門院 號 ○二三章善門院 賞會	伏見七月落飾 後伏見政務
正和元年 三廿			前關基忠三廿 九出家		宗宣六十 十四卒年五						
二年			關家平 七十二 入道前關基忠 七七薨								
三年			關冬平 七十止 左家平 十二廿止 左藤道平 十二廿六 任元右 右藤經平 同日任元 右藤經平 同日任元								
三年			內具守 十二止 前太實家 正十七 年六十六								

卷名 年號	天皇 ○△皇居 ○太子	上皇 △仙洞	攝政 關白	大臣	將軍	執權	兩波羅	紀事
鳥千らう	四年 正和	△後伏見月日今小路殿	關家平九廿一 止 關冬平九廿一 詔	內藤實泰 三十三任		●照時七十 廿五卒家同 基時七十一 守讚岐 權七十一 守武藏 貞顯七十一 守連	北時敦元 南維貞奧 八月日入	六廿三永福門院落 院落飾
五年	文保 △月日二條殿 四十八二條 富小路殿 ●伏見九三崩年五 十三		關道平 詔 八廿三	左道平廿一止 左藤經平元右廿二任 右藤實泰同日任元 內藤公顯同日任 ●前內具守正十九出 家尋薨	高時 左馬 ●基時七十 卒 基時七十 守相摸守			九廿八延明門院落 飾
二年	後醍醐 尊治 △二月日常盤井殿 後伏見 院 △後伏見在關道持 花園 新院 △三十九坊 王立坊 其親		關道平十二廿 九止 關內經九 詔十二廿	太藤實重元前內 ●左經平六廿五薨 元前右 左藤實泰元前右 右藤家定同日任 元前右				三廿九天皇即位○ 四廿五今出河院崩 年六十七○四十二 談天門院々號○十二 廿一 廿四 廿四

山みの秋

元應 四年 八改廿	二年	元亨 元年 三改廿	二年	元應 四年 八改廿
			●前攝師教七七 薨	
			○前太實重九廿三出 家	
		●前師信十一一薨 ●前右公顯二八薨 ●前內通重月日薨	左實泰八十一止 左藤房實元右八十一任 右藤兼季同日任 內藤冬氏六廿九任 內藤冬教八十一任	
			●時教五廿 十四卒年四	
		北範時 將監十 廿二入洛 維貞七 下向關 即上洛 東	八七奉遷春日神木 于假殿○同十五安 福殿御歌合	
			三廿六萬秋門院々 集○世撰進子藤原 爲○八廿二壽成門 院々○同廿五同 女院落飾	
			正三朝觀行幸	

年表 ○文保○元應○元亨

卷名 年號 天皇 △皇居 ○太子 上皇 △仙洞 攝政 關白 大臣 將軍 軍執 權兩六波羅 紀事

秋の山	元亨三年
關内經三廿九 關房實 詔三廿九	關内經三廿九 關房實 詔三廿九
大通雄五二止 太藤冬平 任元前太還 左房實六十四止 左藤實泰 任元前五還 右兼季七月日止 入道前太實兼九十 前右家定八廿出家	大通雄五二止 太藤冬平 任元前太還 左房實六十四止 左藤實泰 任元前五還 右兼季七月日止 入道前太實兼九十 前右家定八廿出家
左實泰月日止 左藤冬教 元內廿七任 右藤經忠 同日任 内藤實衡 同日任	左實泰月日止 左藤冬教 元內廿七任 右藤經忠 同日任 内藤實衡 同日任
維貞八十月 南下關 石五十二昭慶門院崩 賀清行幸 ○同廿三 依法行幸 ○同廿三 大覺殿 ○七 民部卿藤為 行幸 ○七 七廿三永嘉門院落 飾七廿三永嘉門院落 院七廿三永嘉門院落 九廿三永嘉門院落 土岐賴多波羅兵殺 長捕實朝後書于關 五天皇賜警書于關	維貞八十月 南下關 石五十二昭慶門院崩 賀清行幸 ○同廿三 依法行幸 ○同廿三 大覺殿 ○七 民部卿藤為 行幸 ○七 七廿三永嘉門院落 飾七廿三永嘉門院落 院七廿三永嘉門院落 九廿三永嘉門院落 土岐賴多波羅兵殺 長捕實朝後書于關 五天皇賜警書于關

春の別	正中元年 改二
後宇多六廿五崩 年五十八	後宇多六廿五崩 年五十八
前關家平三廿 九出家五廿二	前關家平三廿 九出家五廿二
前關内經十二 二薨	前關内經十二 二薨
前關冬平正十九 薨	前關冬平正十九 薨
關道平 詔元前 三薨	關道平 詔元前 三薨
左實泰八十五薨 前左實泰	左實泰八十五薨 前左實泰
前將軍久明 親王十四薨	前將軍久明 親王十四薨
維貞九十七 卒年四十七	維貞九十七 卒年四十七
守時 相摸 殿權廿四守相摸 四廿四連夫	守時 相摸 殿權廿四守相摸 四廿四連夫
南貞將後 入洛十一月十六	南貞將後 入洛十一月十六
八月日流資朝于佐 渡○十二二十八藤原 爲定繼進後拾遺 集四季部	八月日流資朝于佐 渡○十二二十八藤原 爲定繼進後拾遺 集四季部

元正元年  
改二  
元德元年  
改八  
元亨元年  
改三  
元長元年  
改二  
元久元年  
改二  
元正元年  
改二  
元德元年  
改八  
元亨元年  
改三  
元長元年  
改二  
元久元年  
改二

關冬教 詔八廿五  
關經忠 詔八廿六  
關道平 詔元前  
關房實 詔三廿九  
關内經 三廿九  
關冬平 正十九  
關道平 詔元前  
關房實 詔三廿九  
關内經 三廿九  
關冬平 正十九  
關道平 詔元前  
關房實 詔三廿九  
關内經 三廿九

右藤基嗣 元內廿六任  
内源長通 同日任三  
内藤公賢 三五任  
右藤經忠 同日任  
内藤實衡 同日任

前太通雄 十二十一  
薨年七十三

前將軍久明  
親王十四薨

維貞九十七  
卒年四十七

守時 相摸  
殿權廿四守相摸  
四廿四連夫

南貞將後  
入洛十一月十六

八月日流資朝于佐  
渡○十二二十八藤原  
爲定繼進後拾遺  
集四季部

六廿於中殿有御遊  
御作文 ○十七有御歌  
御遊御作文御和歌

二年	元德元年 改八	三年	二年	元正元年 改二
				元正元年 改二
關冬教 詔八廿五			關冬平 正十九 薨	
關經忠 詔八廿六			關道平 詔元前 關房實 詔三廿九	
關道平 正廿六 止			前左實泰 八十五薨 前左實泰	
右藤基嗣 元內廿六任 内源長通 同日任三 内藤公賢 三五任			前將軍久明 親王十四薨	
茂時 左馬頭 七九連			維貞九十七 卒年四十七	
南時益 左 日入洛			守時 相摸 殿權廿四守相摸 四廿四連夫	
將監七廿近左 一入洛			南貞將後 入洛十一月十六	
王下定 九野宮惟子内親			八月日流資朝于佐 渡○十二二十八藤原 爲定繼進後拾遺 集四季部	

卷名 年號 天皇 上皇 攝政 關白 大臣 將軍 軍執 權兩六波羅 紀事

元弘元年 八月廿四日 置寺九廿九字 治平院 二六波羅 光嚴量仁 九廿踐祚 土御門東洞 院殿 十一八康仁 親王立坊

後伏見花園八月廿常 日六波羅 盤井殿

左冬教正卅止 左藤基嗣右一任元 右源長通同日任元 內公賢二一止 內藤季衡二一任

三十四年 四月廿七日 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽

久米の皿山 元弘二年 正月廿八日 改元 後醍醐寺 隱岐國分寺

太藤兼季十一元前右 右長通七十三止 右藤季衡十 內源通顯十四任

左冬教正卅止 左藤基嗣右一任元 右源長通同日任元 內公賢二一止 內藤季衡二一任

三十四年 四月廿七日 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽

花の草月 元弘五年 正月廿五日 正號 二號 光嚴寺 國太六波羅 館平十波羅 二波羅 光嚴寺 國太六波羅 館平十波羅 二波羅

左藤道平五十七任 右源長通五十七任 內藤公賢六十二任

入道貞顯 守時五十 茂時五 二自害

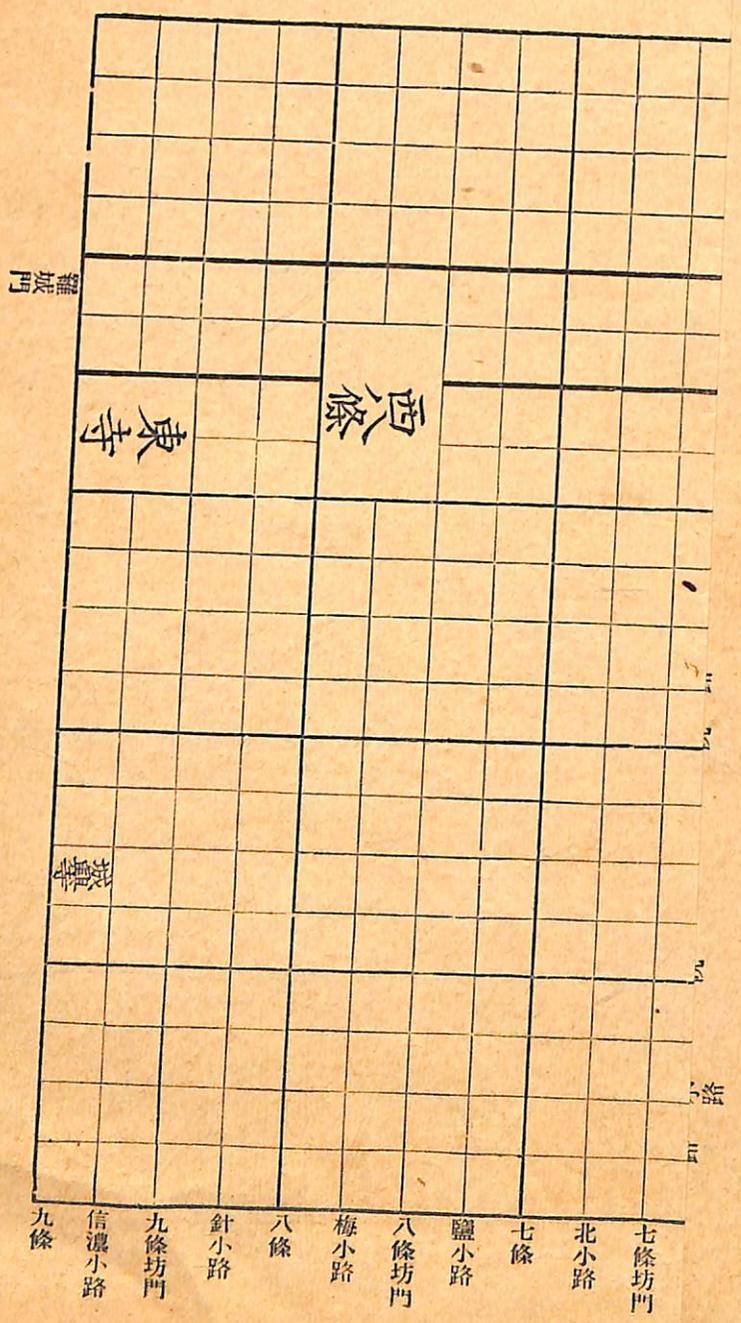
三十四年 四月廿七日 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽 幸於天基皇御覽

增鏡年表終

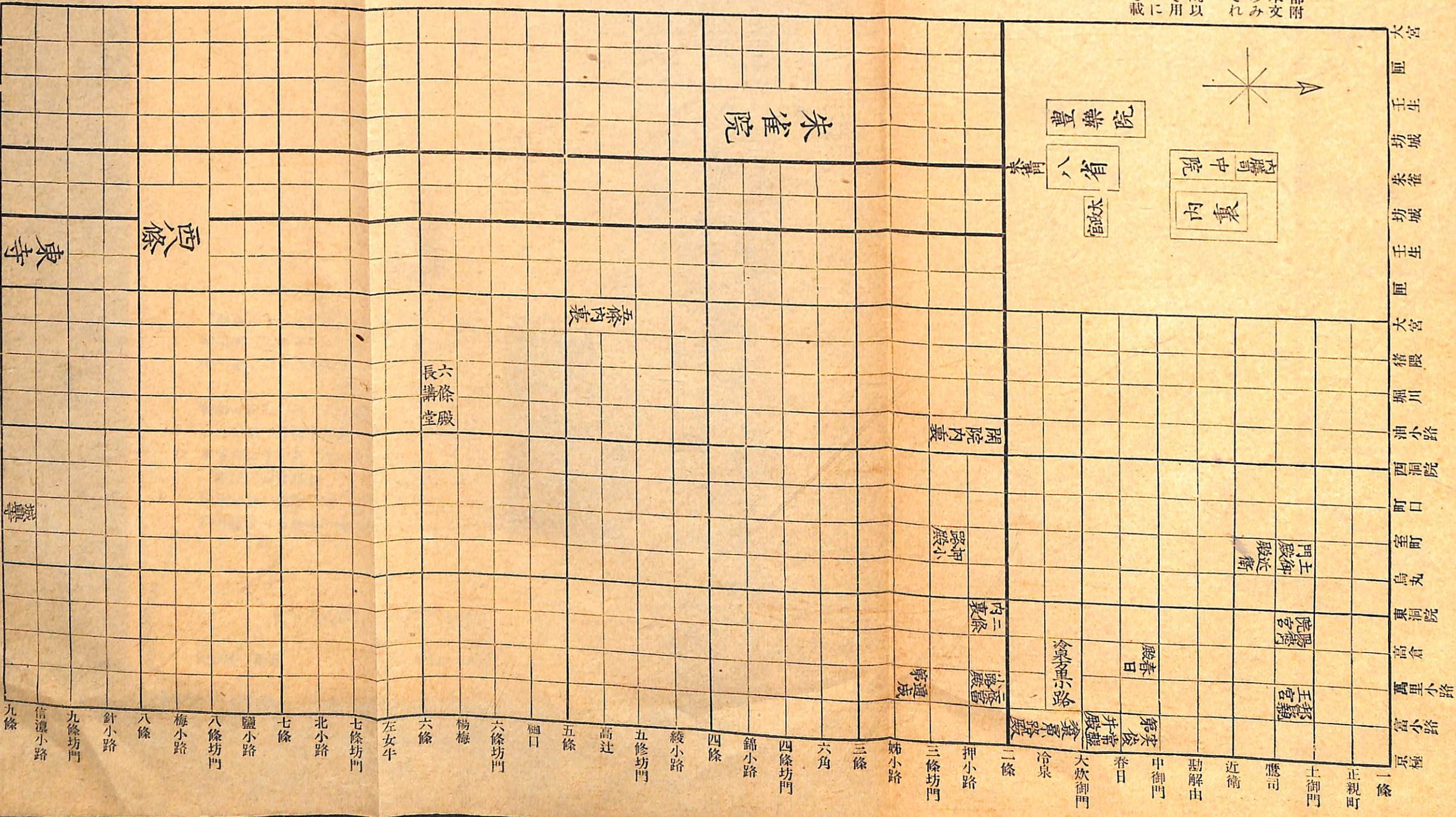
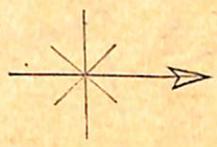
年表 元弘

京都圖

右京大宮通  
以西六略ス  
左京



(備考)  
一本圖、および京都附近圖は、増鏡の本文に見えたる地名のみをあげて、他はこれを略せり。  
一内裏は、當時閑院以下の里内裏のみを用ひたれば、こゝには、大内裏の圖を載せず。



羅城門

一條 正親町 土御門 鷹司 近衛 勸解由 中御門 春日 大炊御門 冷泉 二條 押小路 三條坊門 三條 六角 四條坊門 四條 綾小路 五條坊門 高辻 五條 堀口 六條坊門 楊梅 六條 左女牛 七條坊門 北小路 七條 鹽小路 八條坊門 梅小路 八條 針小路 九條坊門 信濃小路 九條

大宮 匣 壬生 坊城 朱雀 坊城 壬生 匣 大宮 猪隈 堀川 油小路 西洞院 町口 室町 烏丸 東洞院 高倉 萬里小路 富小路 京極

東寺

西條

朱雀院

豊樂院

八省

宮中

院中

内裏

五條内裏

長六講堂殿

閑院内裏

堀小路

二條内裏

六條坊門

冷泉坊門

春日殿

實後井殿

院中

王宮

倉敷殿

堀小路

三條坊門

三條

錦小路

四條坊門

綾小路

五條坊門

高辻

五條

堀口

六條坊門

楊梅

六條

左女牛

七條坊門

北小路

七條

鹽小路

八條坊門

梅小路

八條

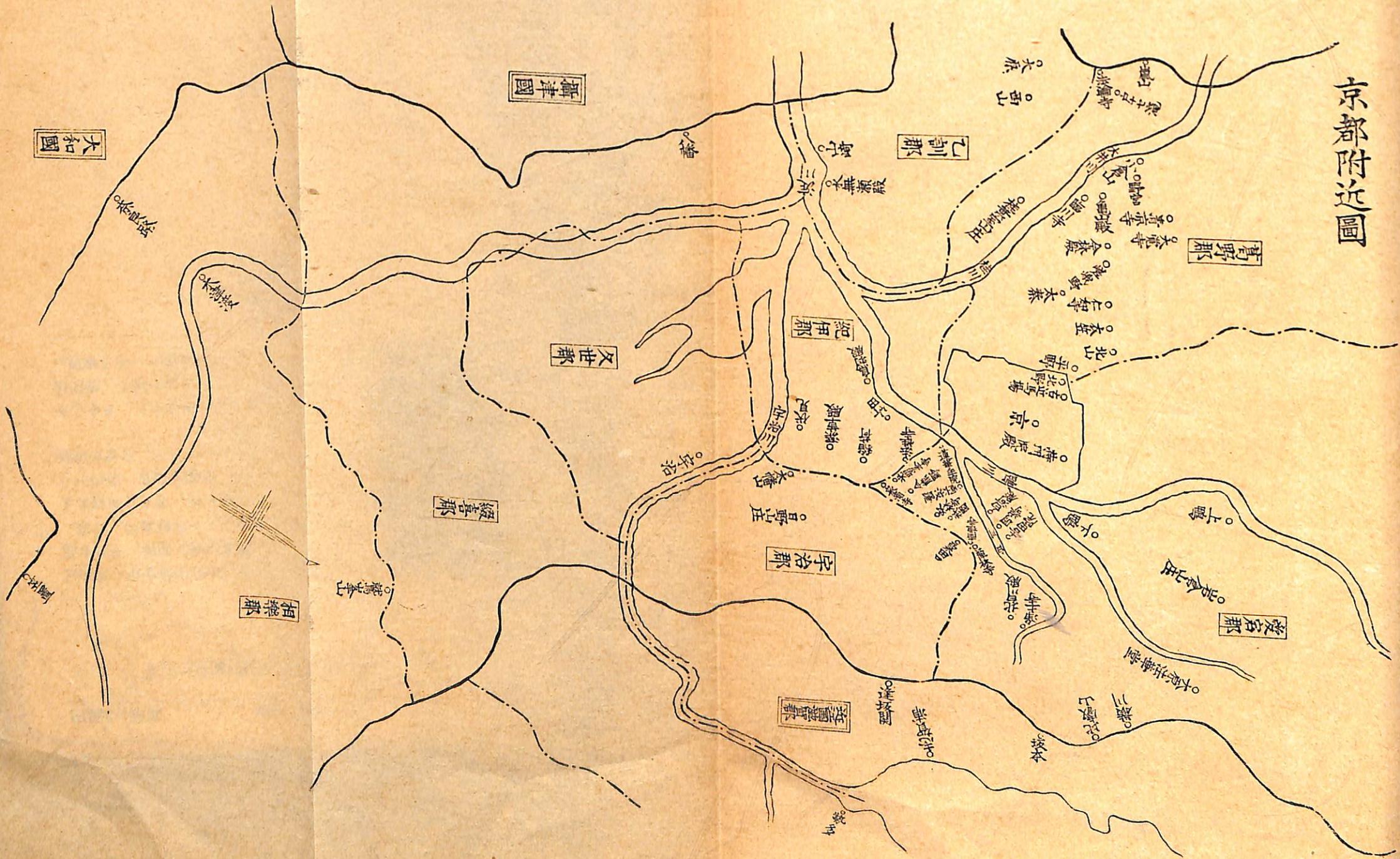
針小路

九條坊門

信濃小路

九條

京都附近圖



葛野郡

乙訓郡

伊賀郡

又世郡

緩喜郡

宇治郡

淡路郡

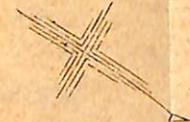
山背國

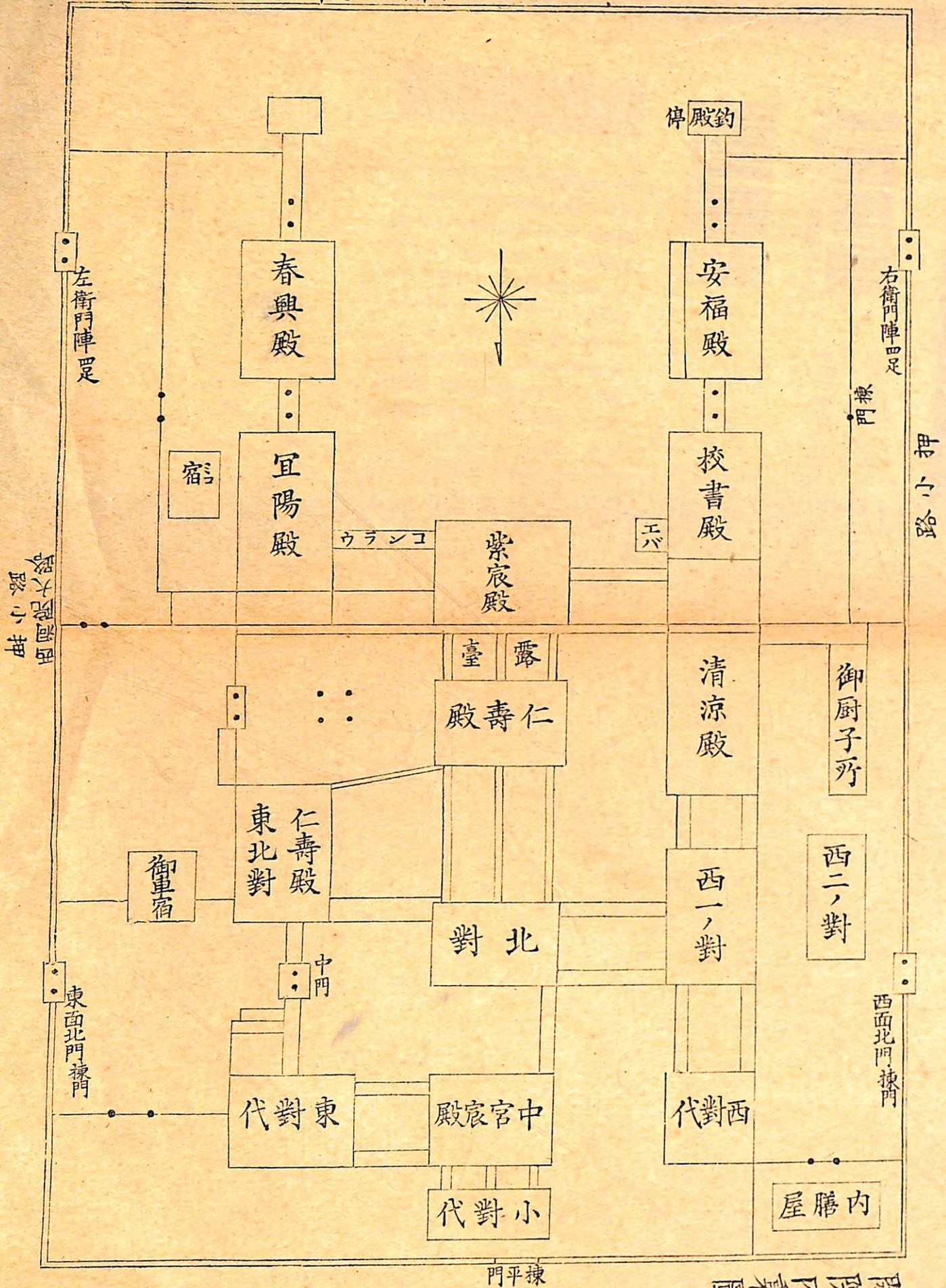
攝津國

大和國

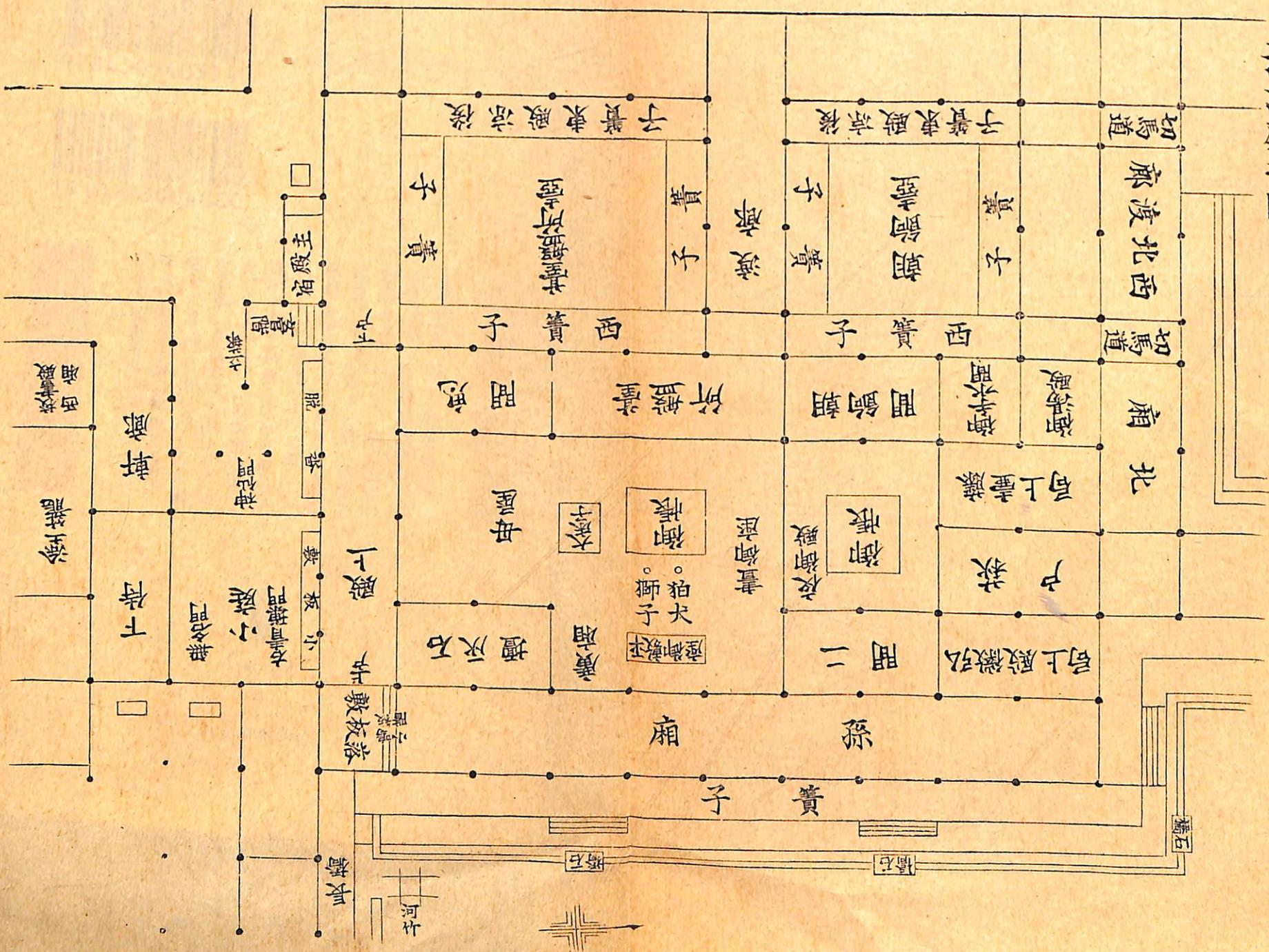
相樂郡

葛野山

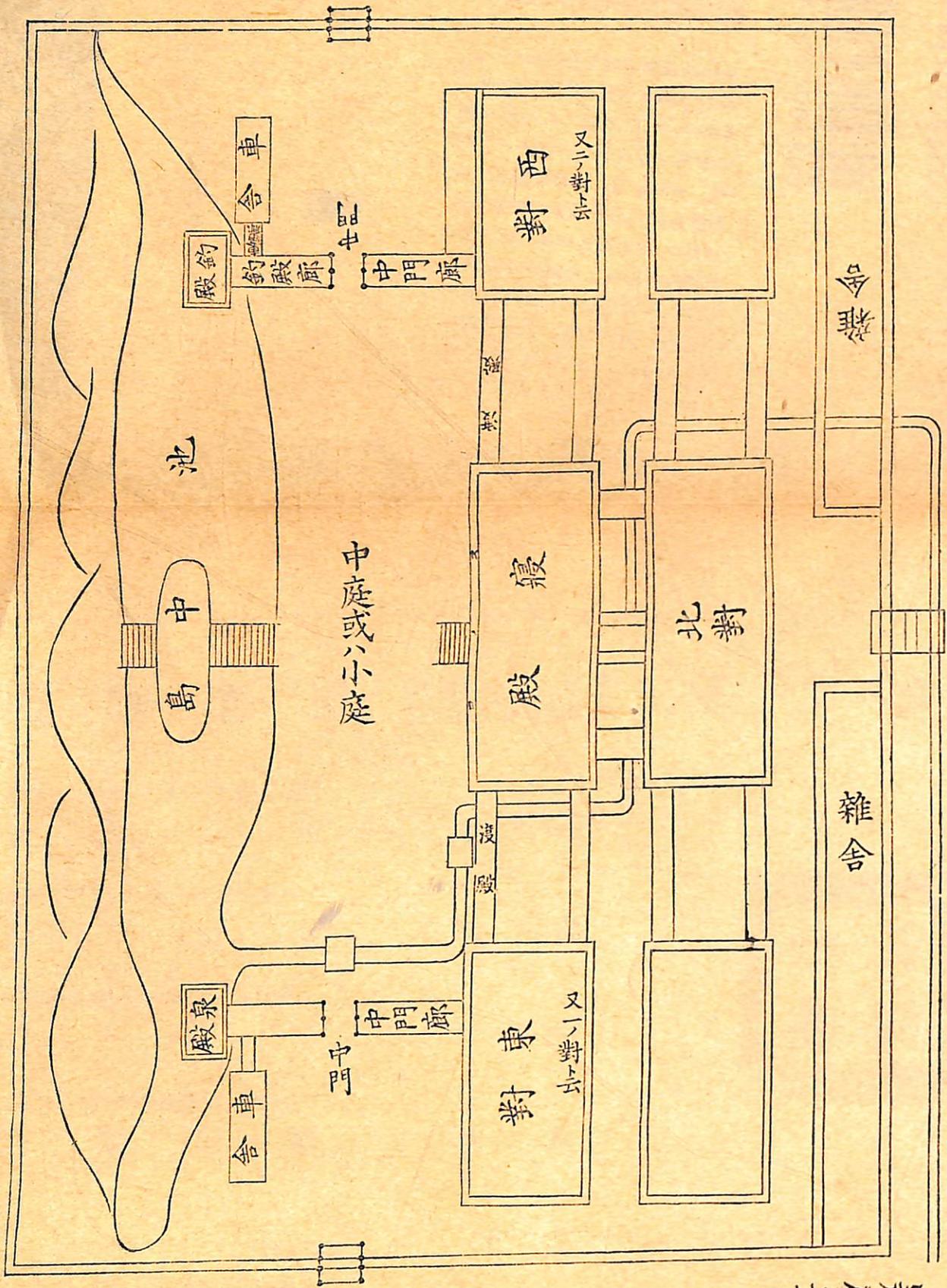




# 清涼殿之圖



寢殿造圖



明治三十一年六月三日印刷  
明治三十一年六月七日發行



著者

和田英松

東京市本郷區湯島新花町百〇六番地

著者

佐藤球

東京市下谷區北稻荷町廿四番地

發行者

三樹一平

東京市神田區錦町一丁目十番地

印刷者

多田榮次

東京市神田區小川町一番地

發行所

東京市神田區錦町一丁目十番地

明治書院

增鏡詳解附錄  
定價金參拾錢

特約大賣捌所

東京神田	同	東京神田	上田屋支店	常陸水戸	川又銀藏	羽後秋田	成見清兵衛
大坂備後町	同	同	岡崎書屋	尾張名古屋	永東書店	同	東海林書店
名古屋本町	同	同	渡邊書店	伊勢津	三論文次郎	同	大澤鮮進堂
熊本新二丁目	同	同	播磨屋	同	豐住謹次郎	陸奥弘前	今泉道次郎
	同	同	敬文堂	同	關西圖書會社	同	品川大右衛門
	同	同	三省堂	甲斐甲府	古川小三郎	加賀金澤	宇都宮源平
	同	同	尾呂志屋	信濃長野	柳正堂	越中富山	中田書店
	同	同	田中書店	同	西澤喜太郎	同	學海堂
	同	同	盛春堂	同	都築文明堂	因幡鳥取	旭日堂
	同	同	文海堂支店	同上諏訪	水琴堂	出雲松江	川岡清助
	同	同	文海堂支店	同上諏訪	鶴林堂	備前岡山	武内彌三郎
	同	同	盛文堂	陸前仙臺	室坂日新堂	同	山本金正堂
	同	同	福島屋	同	高藤書店	安藝廣島	積善館支店
	同	同	梅原書店	同	木村文助	周防山口	桂山陽堂
	同	同	吉岡支店	同	佐藤養次	紀伊和歌山	宮井書店
	同	同	田沼大右衛門	岩代若松	藤崎祐之助	土佐高知	開成舍
	同	同	尚文館	駿河静岡	田中善平	豊前博多	積善館支店
	同	同	目黒十郎	遠江濱松	吉見義次	豊後大分	甲斐治平
	同	同	覺張治平	岩代福島	谷島屋書店	同	守田書店
	同	同	高橋恒陸	中盛岡	博向堂	肥前佐賀	河内壯助
	同	同	多田屋	同	鶴鳴閣	筑後久留米	菊竹書店
	同	同	長島爲一郎	羽前山形	便益堂	薩摩鹿兒島	吉田幸兵衛
	同	同	長島爲一郎	羽前山形	五十嵐大右衛門	海島函館	魁文社
	同	同	長島爲一郎	羽前山形	五月長平	石狩札幌	小波書店

大賣捌所

東京日本橋	同	東京神田	上田屋支店	常陸水戸	川又銀藏	羽後秋田	成見清兵衛
林平次郎	同	同	岡崎書屋	尾張名古屋	永東書店	同	東海林書店
水野慶次郎	同	同	渡邊書店	伊勢津	三論文次郎	同	大澤鮮進堂
長島文昌堂	同	同	播磨屋	同	豐住謹次郎	陸奥弘前	今泉道次郎
小林喜右衛門	同	同	敬文堂	同	關西圖書會社	同	品川大右衛門
杉本七百丸	同	同	三省堂	甲斐甲府	古川小三郎	加賀金澤	宇都宮源平
柳原友吉	同	同	尾呂志屋	信濃長野	柳正堂	越中富山	中田書店
大倉書店	同	同	田中書店	同	西澤喜太郎	同	學海堂
目黒支店	同	同	盛春堂	同	都築文明堂	因幡鳥取	旭日堂
松榮堂	同	同	文海堂支店	同上諏訪	水琴堂	出雲松江	川岡清助
青野友次郎	同	同	文海堂支店	同上諏訪	鶴林堂	備前岡山	武内彌三郎
文海堂	同	同	盛文堂	陸前仙臺	室坂日新堂	同	山本金正堂
服部書店	同	同	福島屋	同	高藤書店	安藝廣島	積善館支店
北隆館	同	同	梅原書店	同	木村文助	周防山口	桂山陽堂
松邑孫吉	同	同	吉岡支店	同	佐藤養次	紀伊和歌山	宮井書店
東京堂	同	同	田沼大右衛門	岩代若松	藤崎祐之助	土佐高知	開成舍
中西屋書店	同	同	尚文館	駿河静岡	田中善平	豊前博多	積善館支店
有樂	同	同	目黒十郎	遠江濱松	吉見義次	豊後大分	甲斐治平
上野橋	同	同	覺張治平	岩代福島	谷島屋書店	同	守田書店
	同	同	高橋恒陸	中盛岡	博向堂	肥前佐賀	河内壯助
	同	同	多田屋	同	鶴鳴閣	筑後久留米	菊竹書店
	同	同	長島爲一郎	羽前山形	便益堂	薩摩鹿兒島	吉田幸兵衛
	同	同	長島爲一郎	羽前山形	五十嵐大右衛門	海島函館	魁文社
	同	同	長島爲一郎	羽前山形	五月長平	石狩札幌	小波書店

明治書院出版書目録

(明治三十一年二月現在)

第一高等學校教授 落合直文先生 合著  
 第二高等學校教授 小中村義象先生 合著

大鏡詳解

題ク口 全壹冊 定價金壹圓六拾錢  
 一ス製 全四冊 定價金貳拾五錢郵稅六錢  
 分本 全四冊 定價金壹圓六拾錢

國文の通弊たるや、流弊既多なるも、浮華纖弱に陥り易きにあり。獨り大鏡は然らず、雄渾莊重の筆にて藤原氏全盛時代の内幕を  
 忌憚なく書き現はしたるものなれば、苟も國史國文に志あるもの、必讀すべき書也。然れども字句事實の解し難きは學者の困しむ  
 處。本書は落合小中村の兩先生が該博なる學識を以て、之を精細に註釋せられたるものなれば、斯道の士必ず坐右に具ふ可き也。

故文學博士 小中村清矩先生校閱  
 和田英松 佐藤球兩先生著

增鏡詳解

和裝 全四冊 上中下定價各金四拾五錢郵稅六錢  
 美本 附錄 定價金貳拾五錢郵稅四錢

増鏡は、所謂三鏡の一にして、文章雅健、記事正確、以て國文國史研究者の必讀すべき書なるに係らず、古來註釋書なきは、學者  
 の大に遺憾せざる所也。本書は、此欠を補はむため、和田佐藤兩先生が多年の苦心を、故小中村文學博士の懇篤なる校閱に成り  
 たるものにて、解釋の詳密、考証の確實なるは、稀に見る所の者、希くは、斯道の士、幸に御愛讀あらむことを。  
 在大學院文學士 鹽井正男先生著

新古今和歌集詳解

和裝 全六冊 每冊 定價金卅五錢郵稅金六錢  
 美本 一卷既刊二卷二月中出來以下續刊

和歌は、優麗なる我國人が心情の美術品にて、誠に我が文學の花なり。而して、新古今集の時代は最も隆盛進歩を極めて、よく幽  
 遠巧妙に、よく優麗風致ありて、實に其蘊奥を盡し其の美妙を極めたれば、心あらむ人、殊に文界にある人は、必ず此の集を味は  
 ざるべからず。されど、未だ此の集を親切に解釋せる良書なき故に、人多く其美を味ふを得ず。著者はこゝに思ひ立ちて新に此の  
 詳解を著し毎首の意義詞遣ひを詳細懇切に解釋せられ、且つ其の妙所々々の評論をも添へられぬ。著者が歌道の名は世の知らるゝ  
 所本院の贅言を要せざるべし。

第一高等學校教授 落合直文先生編 文部省檢定濟

### ●中等國文讀本

和裝 全四冊 定價卷一、二 各貳拾錢  
上製 價卷三、四 各廿貳錢

第一高等學校教授 落合直文先生編 文部省檢定出願中

### ●中等國文讀本

和裝 全十冊 定價卷一、二 各貳拾錢  
上製 價卷三、四、五、六 各廿貳錢  
價卷七、八、九、十 各廿九錢

今日、國文教科書として世に流布せる者、多くは編輯體列的にして、撰擇秩序的の者は極めて稀なり。否、撰擇秩序等は各、編者の最も着意する所、只、眞に教育的に撰擇順序したるものなきなり。本書は落合先生が、教育的慧眼と文學的靈腕を以て、主に分量を稱り、性質材料を撰び、最も順序系統を正して編次せられたるものなり、而して其の一二の卷には、直に今日の普通國文を收め、其の三四五六の卷には、稍遡りて徳川時代の文章を取り、其の七八九十の卷、即ち四年五年兩級に課すべきものに至りては、更に進みて神皇正統記、吉野拾遺、太平記、保元物語、源平盛衰記、さては徒然草、方丈記、十六夜日記、土佐日記、大鏡、増鏡、榮花物語等より採萃せり。蓋し、觀念思想に基き、難易古今を撰び、且、連絡關係に務め、全く教育的に按排せるなり。尙ほ一面より云へば、外形には流暢、華麗、雄渾、莊重等の各文體を具へ、内容には倫理、教育、歴史、博物等の諸學科を含み、智識、道德の材料、讀書作文の軌範を完備せり。是れ本書が獨り教育的に編輯せられたり委任する所以、眞に國文教科の目的に適へり云ふべし、されば發刊當初より府下は勿論、各地の尋常中學校、尋常師範學校、高等女學校等より、續々採用の榮を蒙れり。

◎中等國文讀本參考書 第一集 全壹冊 定價金貳拾錢 郵稅金四錢

第一高等學校教授 落合直文先生著

### ●日本大文典

背皮製全壹冊定價壹圓七拾五錢  
小包料百里迄拾貳錢以上廿四錢

分本 一、二、三、各四拾錢 四、四拾五錢 郵稅各六錢

世に文法を學ぶべき書、多しと雖も、いづれも完全ならざるは、世人の認むる所なり。落合先生常に其を歎せられたりしが、幾多の春秋を経て、刻苦研鑽、茲に本書を著せられたり。古今の文法書を參照して、その精を採り、その弊を去り、その體を撰り、その論を論の精確詳密なること、古人未幾の著多きは實に本書の特色なり。

### ●日本中文典

全二冊 正編 貳拾五錢 郵稅四錢  
續編 價 三拾五錢 郵稅六錢

近來日本文典の著多しと雖も、繁簡其度を得ず、以て中學程度諸子の指導たるもの甚だ稀なり。本書は、著者が考案さ、多年實地授業の經驗に因てなりたるものにて、正編に於ては、初學者と雖も通曉し易き様、文典の全体に付き簡単に説明を與へ、續編に於ては、必要なる部分を選びて、説し、且つ各編終りに應用問題を掲げ、以て練習に便ならしむる等は本書の特色なりとす。されば中學程度の教科書には勿論、高等學校入學試験、教員檢定試験等、受験者には最も適切なるものなり。

文部省檢定濟

學習院教授 關根正甫先生校 金子元臣先生編

### ●徒然草讀本

大和綴 全一冊 定價金拾八錢  
美本 郵稅金四錢

高等師範學校教授 島山健先生校 金子元臣先生編

### ●神皇正統記讀本

大和綴 全二冊 定價金參拾錢  
美本 郵稅金六錢

徒然草、神皇正統記は、共に廣く教へ書として、用ゐらるゝも、まゝ不適當の箇所あるは、大に遺憾とする所也。さればこゝに、専ら教科用に供せむため、神道、佛教及男女間の關係を説ける等不必要的部分を削り、文法、假名遣、送假名等の誤を訂正し、以て此讀本を編纂したれば、中等程度の教科書として適當なるべきは勿論、にして、**今回兩書とも文部省の檢定濟となりたり。思ふに徒然草の檢定濟となりたるは、本書實に嚆矢なるべし。**

關根正甫先生校 金子元臣先生著

### ◎徒然草讀本解釋

定價拾五錢 郵稅四錢

### ◎神皇正統記讀本解釋

近刊

故文科大學教授文學博士 小中村清矩先生著

# 歌舞音樂畧史

和裝 全二冊 定價 金七拾錢  
再版 全二冊 郵稅 六錢

故小中村博士が史學考證の事に精進せられたるは、公論の存する所。この書、我國代の歌舞音樂よりして、徳川氏時代歌舞伎、淨瑠璃、小唄、長唄、三弦、鼓弓の類に至るまで、其事實、起原沿革等を細叙して、剩されたるものなく、猶、數十葉の圖畫を附して、一々讀者の理解を、記にさし便ならしめられたれば、直接歌舞伎音樂に關係ある人は勿論、何人とも雖も、必ず一本を蔵し賜はざる可からざる書也

伯備勝安房先生 田口卯吉先生題字 櫻井一義氏著

# 太田道灌

全一冊 上製 金三拾錢  
並製 金廿五錢 郵稅各四錢

江戸の開拓者道灌傳成る。史料は、勝伯、田口卯吉、島野巖音（子爵太田家舊家扶）等の諸先生より得たるを以て、考証正確、行文極め、簡明也。如之道灌の抱負及文武の才幹を世に紹介せんを欲し、其遺稿、墓景集、我宿草、平安紀行、花月百首等を附録せり。若し夫れ之を一讀せば、偉人たるを知るのみならず、文人武夫の儀範とするに足るべし。

正三位 田侯爵題歌 理學士和田雄治君序文  
萩の家主人 落合直文先生著

〔野中至君夫妻石版肖像及富士山絶頂劍峯觀測所寫真石版入〕

# たかねの雪

三 全一冊 定價 金二拾五錢  
郵稅 金六錢

野中至氏が、生命財産を犠牲にして 富士山頂に越年を企てたるに、妻千代子氏も共に登山、その業を助けたるは、當時、天下の耳目を聳動せり。此書、落合先生が、例の華麗なる筆もて其事蹟を詳記したるもの。青年者、其を讀まば、以て獻身的の勇氣を鼓舞すべく、妙齡の婦女子は、以て貞操の念を深くすべく、小學の兒童には、こよなき立志篇となり、文を學ぶ者には、作文練習の助となるべし。そも、又、高層風景觀測の結果は、學術界は勿論、農工商等にも、大なる關係を有すれば、廣く其道の人々の益となるべき也。且つ、佐々木信綱君の小夜曲と題する歌數下頁及落合氏の野中下代子君なる新體詩を附録したり。

序文

〔森鷗外君 井上哲次郎君 大口潤二君 坂正臣君 正岡子規君〕  
〔落合直文君 佐々木信綱君 原抱一庵君〕  
〔朝鮮前内部大臣 趙善淵君 趙善淵君 趙善淵君〕  
鐵幹 與謝野寛君著

# 東西南北

訂正 全一冊 定價 金貳拾錢  
五版 郵稅 四錢

附録には、諸新聞雜誌の批評數十頁を添ふ

著者曩に朝鮮より歸つて、本書を公にせらる。著者が短歌と新體詩と收めて此中にあり。思ふに本書前後、新體詩集の發行なきにあらずといへども、本書の如く世に歡迎せられたるものはあらずべし。是れ著者が斯道に於ける非凡の技能を有すればなり。

朝鮮大院君題字 與謝野鐵幹君著

# 天地玄黃

四 全一冊 定價 貳拾錢  
版 郵稅 四錢

『東西南北』以後の作を集めて『天地玄黃』と題す。『東西南北』を讀み給へる諸君は、又本書を一讀し給はざる可からず。著者が短歌と新體詩とに於ける技能に至ては、世既に定論のあるありて、多く言ふを要せず。本書の成らむとするや、朝鮮雲岷宮の老雄大院君、特に著者のために『詩境』の二字を題して寵贈せらる。君の書、龍蛇飛動し、滿紙ために腥きの概あり。石版に縮寫して、卷首に掲げたるもの即ち是なり。四版に際し、江湖の評言數十頁を添ふ。

無名氏著

# 代々の面影

新 全一冊 定價 金廿錢  
集 郵稅 金四錢

青崖山人國分高胤先生著

# 詩董狐

評 全一冊 定價 金廿錢  
林 第一集 郵稅 四錢

前大學總長渡邊洪基先生題字  
故文學博士中村正直先生序文

博言學士高橋五郎先生著

### ● 增訂二版 いろは辭典

香皮クロ  
一ス製 全二冊

(大)定價金參圓五拾錢特別廉價金貳圓  
(小)定價金壹圓五拾錢特別廉價金七拾四錢  
郵稅(大)參拾貳錢 (小)八錢

國民之友 高橋氏のいろは辭典(增訂二版) 昔長にして適當なる辭書の歡迎せられざる間は、其の社會の人文未開の頂點にあるを證するもの也。永代大雜書のもてはやされたる時代の日本には、最も不完全なる節用集にても事足りし也。然りと雖も今や斯の如き昔譚を繰返す時にあらず、文學界の串日に月に益々多事ならんこと此時に當つて想ふる所只た完全なる辭典の世に出でんこと即ち是れ耳。高橋氏の『和漢雅俗いろは辭典』は去明治廿一年を以て世に公にせられたるもの、當時既に定評あり、後大槻氏の『言海』出で、山田氏の『日本大書』出づ、未だ共に光を争ふに足らざる觀あり蓋し煩雜は簡明よりも壓はるれば也。是に於て乎即ち知る『いろは辭典』の如きは、明亮簡潔、一目にして其の要を得るもの、固より何人にも歡迎せらるべき也と云云。

大久保初雄先生著

### ● 古事記講義

全三冊  
美本帙入

定價金八拾錢  
郵稅金拾六錢

本邦最古の歴史として、學者の必讀すべき古事記の講義は、大久保先生によりて、著されたり。其解説の詳細にして確實なること共に、製本の堅牢にして優美なる、必ず座右に具ふべき書なり。

専門學者三十二大家分担校閲 東京府城北尋常中學校教諭佐村八郎先生編纂

### ● 國書解題

全廿四冊

第一第二第三  
出版以下毎月  
平均二冊發行  
一冊參拾錢十二冊前金三圓貳拾錢  
廿四冊前金六圓  
郵送料一圓四錢

此書は古來の國書を網羅し其性質年代著者註釋等を説明したる者也解題は書名の假字順に掲げ別に精細なる分類的索引を附す四六版二倍の大本にして總頁數二千數百解題部數一萬餘實に古今の大著述天下の大出版物なり

大賣捌

東京神田區錦町  
一丁目十番地 明治書院



